

01
全人的苦痛1

第8会場(会議センター311+312) 6月21日(金) 8:30-10:00

座 長: 岡本 拓也(洞爺温泉病院 ホスピス緩和ケア病棟)
奥山 徹(名古屋市立大学病院 緩和ケア部)

- 01-1 緩和ケアチーム初診評価としてのHADS (Hospital Anxiety Depression Scale) :
地域がん診療連携拠点病院の1年間Audit.....284
山本 育代(社会保険中京病院 緩和支援診療科・緩和ケアチーム)
- 01-2 ソリューション・フォーカスト・アプローチを用いたソーシャルワークの有効性について
～がん患者の在宅支援～.....284
岡江 晃児(独立行政法人国立病院機構 大分医療センター)
- 01-3 スピリチュアルケアが奏功したと考えられる肺がん末期の一症例.....284
石川 哲大(尾道総合病院 緩和ケアチーム)
- 01-4 早期大腸がんと病名告知を受けた患者のスピリチュアルな状態.....284
前滝 栄子(京都府立医科大学 大学院 保健看護研究科)
- 01-5 「スピリチュアルペインに向き合う力を養う」セミナーの開催経緯.....285
山田 圭輔(金沢大学附属病院麻酔科蘇生科)
- 01-6 看護師が行う短期回想法の有用性～スピリチュアルペインを抱える終末期がん患者の事例を振り返って～.....285
金澤 早苗(JA愛知厚生連 豊田厚生病院)
- 01-7 スピリチュアルケアの概念を取り入れた作業療法～緩和ケアにおける作業療法士の必要性～.....285
東谷 成晃(社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院 リハビリテーション科)

02
ホスピス・緩和ケア病棟

第9会場(会議センター313+314) 6月21日(金) 8:30-10:00

座 長: 飯田 邦夫(協立総合病院 緩和ケア診療部)

- 02-1 地域終末期緩和ケアネットワークにおける療養病床の役割.....285
藤木 啓(医療法人誠和会 藤木病院)
- 02-2 緩和ケア病棟開設初年度の現状と課題.....286
中西 容子(済生会松阪総合病院)
- 02-3 終末期の治療方針決定者の属性がホスピスの入院決定に与える影響についての検討.....286
赤司 雅子(救世軍清瀬病院 ホスピス緩和ケア科)
- 02-4 緩和ケア病棟から在宅移行した患者の緩和ケア病棟再入院理由についての解析.....286
伊藤 浩明(岐阜県立多治見病院 緩和ケア病棟)
- 02-5 最近3年間の名古屋第一赤十字病院緩和ケア病棟の役割の変化.....286
湯浅 典博(名古屋第一赤十字病院 緩和ケア科)

03
基礎・調査研究

第10会場(会議センター411+412) 6月21日(金) 8:30-10:00

座 長: 片山 英樹(国立病院機構 山口宇部医療センター)
武田 純三(慶應義塾病院)

- 03-1 呼吸困難感の緩和～微小重力環境がもたらした癒しの医療～.....287
青木 将剛(医療法人社団 竹口病院 診療技術部 リハビリテーション科)
- 03-2 造血管腫瘍に対する終末期診療の実態調査(単施設後方的研究).....287
間部 賢寛(生長会府中病院 血液疾患センター)
- 03-3 デノスマブ投与後の血清カルシウム低下率に影響する因子の検討.....287
橋詰 淳哉(長崎大学病院 薬剤部)
- 03-4 がん化学療法施行中の患者における緩和医療に関する意識調査.....287
竹中 元康(岐阜大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)

03-5	原発不明がん患者の受診過程から比較した闘病体験の差異～近医初回受診から専門医受診への様相～……………288 石田 京子（名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻 博士課程前期課程2年、名古屋市立大学病院 看護部）
03-6	在宅緩和ケアに対する意識の変化に関する研究 ～緩和ケア・療養支援に関するフォーラムにおける質問紙調査～……………288 浦久保 安輝子（国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供研究部）

**04
身体的苦痛1**

第11会場（会議センター414+415） 6月21日（金） 8:30-10:00

座 長：安保 博文（国家公務員共済組合連合会 六甲病院 緩和ケア科）
久永 貴之（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

04-1	オキファスト注によるオピオイド導入の有用性・安全性……………288 廣橋 猛（三井記念病院緩和ケア科、緩和ケアチーム）
04-2	緩和ケア病棟でのオキシコドン注射液（オキファスト [®] ）の使用経験……………288 鈴木 正寛（NTT東日本関東病院緩和ケア科）
04-3	強度のがん性疼痛に対してオキシコドン（オキファスト注 [®] ）による Intravenous Rapid Titrationが奏功した2症例……………289 神谷 浩平（山形県立中央病院 緩和医療科、緩和ケアチーム）
04-4	オキシコドン経口薬から注射剤に変更した8症例の検討……………289 大井 裕子（聖ヨハネ会桜町病院 聖ヨハネホスピス）
04-5	オキシコドン注射剤と他のオピオイドとの換算比率に関する臨床的検討……………289 小田 浩之（市立札幌病院 緩和ケア内科）
04-6	不定愁訴と評価されていた内臓痛随伴症状に対するオピオイドの有効性の検討……………289 渡辺 邦彦（医療法人陽気会在宅ホスピスとちの木）
04-7	がん突出痛に対するフェンタニルバツカル錠（FBT）の第Ⅲ相プラセボ対照無作為化二重盲検比較試験……………290 国兼 浩嗣（横浜市立市民病院 緩和ケア内科）

**05
緩和ケアチーム1**

第12会場（会議センター416+417） 6月21日（金） 8:30-10:00

座 長：高橋 美賀子（聖路加国際病院 オンコロジーセンター）
渡邊 紘章（小牧市民病院 緩和ケア科）

05-1	進行肺がん患者における早期からの緩和ケアチーム介入によるQuality of Life(QOL)改善についての前向き研究 患者のQOLと主治医のQOLの差とその経過……………290 横山 太郎（横浜市立市民病院 緩和ケア内科）
05-2	初回治療期から開始した緩和ケア～がん療養サポートチームによる肺がんサポート～……………290 安藤 公子（医療法人社団神鋼会 神鋼病院 がん療養サポートチーム）
05-3	中心静脈栄養ポートから関わる緩和医療と地域連携……………290 渡辺 啓太郎（岡山赤十字病院 緩和ケア科）
05-4	顎骨壊死部の悪臭にメロニダゾールワセリン1%軟膏とクリンダマイシン注が著効した症例……………291 吉川 麻里子（広島総合病院 薬剤部）
05-5	患者と家族と医療スタッフ間における病状認識の相違について～ MDASI-Jを用いた調査より～……………291 荒川 広宣（熊本県指定がん診療連携拠点病院 大腸肛門病センター 高野病院 リハビリテーション科）
05-6	外来緩和ケアチームが介入した切除不能再発がん患者の在宅期間の検討 ～幸福の尺度としての在宅という視点～……………291 白石 好（静岡赤十字病院 緩和ケア推進委員会）
05-7	緩和ケアチームがどのように地域で緩和医療を提供するか ～第3回兵庫県緩和ケアチーム研修会の開催報告～……………291 池垣 淳一（兵庫県立がんセンター 緩和ケアチーム）

座 長：奈良林 至 (埼玉医科大学国際医療センター 緩和医療科)
中村 陽一 (東邦大学医療センター 大橋病院 緩和ケアチーム)

06-1	がんの総合医療の一環としての緩和ケアの実践	292
	照井 健 (東札幌病院 内科)	
06-2	末期胃GIST腹膜播種にて在宅緩和ケア中の腸閉塞症状に対し、 経管栄養にグリベックを併用し症状が緩和された1例	292
	桂川 秀雄 ((公財)東京都保健医療公社 多摩南部地域病院)	
06-3	切除不能・再発進行胃癌の経口摂取可能期間の検討	292
	田伏 弘行 (静岡がんセンター 消化器内科)	
06-4	化学療法起因性の難治性嘔吐に対するプロゲステロン製剤 (ヒスロンH[®]) の有効性の検討	292
	秦 明登 (先端医療センター 総合腫瘍科、市立加西病院)	
06-5	がん治療担当薬剤師による一貫した治療サポート～入院・外来を通じた継続的関わり～	293
	岩部 寛之 (KKR高松病院 がん治療サポートチーム)	
06-6	婦人科癌終末期におけるMohs' pasteを用いた止血効果の検討	293
	築詰 伸太郎 (鹿児島大学病院 産婦人科)	
06-7	オキシコドン注射剤によるRapid Titrationと内服製剤への投与経路変更 ～投与量の評価と換算比率についての検討～	293
	岩本 美樹 (日本医科大学付属病院 乳腺科)	

座 長：西川 満則 (国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部、在宅連携医療部、内科総合診療部呼吸機能診療科)
中島 孝 (独立行政法人国立病院機構新潟病院)

07-1	筋萎縮性側索硬化症の呼吸困難緩和におけるモルヒネの有効性と安全性	293
	田中 寛大 (天理よろづ相談所病院 神経内科)	
07-2	重症下肢虚血患者のQOL向上に対する疼痛管理	294
	村田 千恵 (兵庫県立姫路循環器病センター 看護部)	
07-3	在宅における間質性肺炎終末期ケア	294
	武知 由佳子 (医療法人社団 愛友会 いきいきクリニック)	
07-4	当院における非がん性疼痛に対するがん療養サポートチームの関わり～B群β溶連菌感染症の一例～	294
	桑 裕子 (医療法人社団 神鋼会 神鋼病院 がん療養サポートチーム)	
07-5	慢性心不全患者の終末期に対する緩和ケアチームのかかわり	294
	黒川 勝 (石川県立中央病院 緩和ケアチーム)	
07-6	モルヒネ持続皮下注射が呼吸困難と共に心不全の病態改善にも寄与したと考えられた高齢者の一例	295
	大前 隆仁 (兵庫県立尼崎病院 ER総合診療科)	

座 長：内布 敦子 (兵庫県立大学看護学部)
酒井 禎子 (新潟県立看護大学)

08-1	肝転移合併大腸癌患者に対する病状説明のあり方 ～手術から看取りまで外科医が担当する施設における現状から～	295
	田中 宏 (東住吉森本病院 外科、緩和ケアチーム)	
08-2	当院でのがん患者カウンセリングの取り組みと今後の課題	295
	伊藤 美幸 (広島市立安佐市民病院)	

08-3	外来がん患者・家族への継続支援の現状と課題 ～がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師による病状説明の同席から～	295
	庄司 麻美 (大分赤十字病院 看護部)	
08-4	終末期医療への円滑な移行を意図した治療開始時からの医師による病状や治療法の説明内容	296
	寺町 芳子 (大分大学 医学部 看護学科)	
08-5	化学療法を拒否し死亡した卵巣癌、肺癌重複癌の1例	296
	木曾原 朗 (春日部市立病院 緩和ケア科)	
08-6	意思決定プロセスの整理	296
	新多 恵子 (金沢市立病院 麻酔科・ペインクリニック科)	

09 緩和ケアの質

第9会場(会議センター313+314) 6月21日(金) 10:30-12:00

座 長：児玉 佳之 (時計台記念病院 消化器センター、緩和ケア内科)
中保 利通 (東北大学病院 緩和医療科)

09-1	終末期がん患者の鎮静についての認識調査	296
	岩田 恵子 (大阪市立大学 医学部 附属病院)	
09-2	『キャンパス型緩和デイケアサロン』におけるがんサバイバーの体験	297
	光行 多佳子 (名古屋大学 大学院 医学系研究科)	
09-3	在宅緩和ケアの質の評価～臨死期の麻薬使用量の変動を指標に～	297
	藤川 文子 (医療法人社団修生会 さくさべ坂通り診療所)	
09-4	ゾレドロン酸投与のレジメン作成による適正使用	297
	高瀬 美咲枝 (厚生連高岡病院 総合のがん診療センター、薬剤部、緩和ケアチーム)	
09-5	緩和ケアに関するアンケートを実施して	297
	緑川 靖彦 (呉羽総合病院)	
09-6	食道癌集学治療における緩和医療が果たす役割	298
	江頭 明典 (独立行政法人 国立病院機構 九州がんセンター 消化器外科)	
09-7	がん緩和ケア患者における写真付食事メニュー表活用の現状	298
	大石 晴恵 (社会医療法人財団大和会東大和病院 栄養科)	

010 臨床研究1

第10会場(会議センター411+412) 6月21日(金) 10:30-12:00

座 長：飯嶋 哲也 (山梨大学医学部 麻酔科)
井上 彰 (東北大学病院)

010-1	cFAS(Cancer Functional Assessment Set)を用いたがん患者の身体機能および リハビリ介入効果関連因子の検証	298
	宮田 知恵子 (慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室、慶應義塾大学病院 緩和ケアチーム)	
010-2	当院におけるがんリハビリテーションの現状と今後の課題 ～保存的治療を受けるがん患者のリハビリテーションについて～	298
	石井 瞬 (長崎大学病院 リハビリテーション部)	
010-3	骨軟部肉腫患者における終末期の病態と治療	299
	川島 寛之 (新潟大学 大学院 整形外科)	
010-4	Palliative therapyにおける大腸ステント留置術の位置付け	299
	久居 弘幸 (伊達赤十字病院 消化器科)	
010-5	頭頸部癌患者におけるDN4質問表を用いての神経障害疼痛への低用量プレバガリン早期投与の効果	299
	高瀬 久光 (福岡大学病院 薬剤部)	
010-6	脳神経麻痺症状を呈する担癌患者の診断的ピットフォールについて	299
	原 毅 (諏訪中央病院 緩和ケア科)	

011
身体的苦痛2

第11会場(会議センター414+415) 6月21日(金) 10:30-12:00

座 長：砂田 祥司(呉医療センター・中国がんセンター 緩和ケア科)
坂下 美彦(千葉県がんセンター 緩和医療科)

- 011-1 神経障害性疼痛に対しガバペンチンよりプレガバリンへのローテーションにより
良好な疼痛コントロールが得られた乳癌再発患者の1例……………300
武内 秀也(独立行政法人国立病院機構 別府医療センター)
- 011-2 プレガバリン投与後の神経障害性疼痛へのデュロキセチンの可能性……………300
松岡 弘道(近畿大学 医学部 附属病院 腫瘍内科)
- 011-3 終末期がん患者の難治性嘔気に対するオンダンセトロンの効果……………300
今井 堅吾(聖隷三方原病院 ホスピス科)
- 011-4 強オピオイドから経口トラマドールにローテーションして体動時痛が改善した骨転移の2例……………300
渡辺 啓太郎(岡山赤十字病院 緩和ケア科)
- 011-5 癌患者の死前喘鳴に対して院内製剤スコポラミン軟膏の使用経験……………300
赤司 雅子(救世軍 清瀬病院 ホスピス緩和ケア科)
- 011-6 メサドン治験4例の報告……………301
松田 良信(宝塚市立病院 緩和ケア内科)

012
緩和ケアチーム2

第12会場(会議センター416+417) 6月21日(金) 10:30-12:00

座 長：斎藤 真理(横浜市立大学附属 市民総合医療センター)
長岡 広香(筑波大学附属病院 緩和ケアセンター)

- 012-1 早期緩和ケアの導入に果たす外来での疼痛緩和指導の意義～緩和ケアチームの取り組み～……………301
鷹野 理(社会福祉法人 三井記念病院 薬剤部)
- 012-2 当院における過去3年間の緩和ケアチームの活動について……………301
藤田 和子(京都第一赤十字病院 緩和ケア内科、緩和ケアチーム)
- 012-3 急性期病院における緩和ケアチームの問題点と今後の展望……………302
豊田 暢彦(益田赤十字病院)
- 012-4 外来化学療法室でも切れ目ない緩和ケアを行うためスタッフの積極的連携が必要である……………302
細瀧 喜代志(公立玉名中央病院 緩和ケア委員会、化学療法委員会)
- 012-5 終末期がん患者を支えて～21年の過去・現在・未来～……………302
向原 桂香(堂園メディカルハウス)
- 012-6 当院緩和ケアチームの光と影……………302
黒川 勝(石川県立中央病院 緩和ケアチーム)
- 012-7 「共感マップ」を用いた多職種による緩和ケアカンファレンス……………303
清水 広久(埼玉成恵会病院 外科)

013
化学療法2

第13会場(会議センター418) 6月21日(金) 10:30-12:00

座 長：佐藤 温(弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座)
田中 俊行(高崎総合医療センター 緩和医療科)

- 013-1 初回がん化学療法導入時の緩和ケアニーズに関する検討……………303
柴田 和彦(厚生連高岡病院 総合のがん診療センター 緩和ケアチーム)
- 013-2 化学療法起因性の末梢神経障害に対してデュロキセチンが著明な改善効果を認めた一例……………303
廣橋 猛(三井記念病院 緩和ケア科、緩和ケアチーム)

013-3	肺癌における高度催吐性化学療法実施時の悪心嘔吐に対する2剤併用制吐療法と3剤併用制吐療法 ～2つの前向き試験の比較～	303
	阿部 徹哉 (新潟県立がんセンター新潟病院 内科)	
013-4	標準支持療法抵抗性の化学療法による難治性悪心・嘔吐に対するオランザピン併用の有用性の検討	304
	安部 正和 (静岡県立静岡がんセンター 婦人科)	
013-5	切除不能進行再発大腸癌に対する化学療法期間における緩和ケアのあり方	304
	石川 明子 (箕面市立病院 薬剤部)	
013-6	デノスマブおよびストロンチウム治療併用でゲフィチニブ継続投与を行い、 長期間多発骨転移の病勢コントロールが良好であった肺癌の1例	304
	米谷 卓郎 (独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター 呼吸器外科、緩和ケアチーム)	
013-7	同病の友人の終末期を見届けた大腸がん患者の意志決定支援	304
	柳生 千代子 (盛岡赤十字病院)	

014

第14会場(会議センター419) 6月21日(金) 10:30-12:00

免疫・補完代替・ハーバル療法

座 長: 吉田 稔 (熊本赤十字病院 血液・腫瘍内科)

014-1	音楽療法が心の支えとなり延命とQOLの向上に繋がったと思われる一例	305
	小林 頼子 (安城更生病院 緩和ケア内科)	
014-2	終末期がん患者の症状緩和に対する「整膚」の有用性の検討	305
	早川 貴子 (整膚学園)	
014-3	終末期がん患者における六君子湯の症状改善効果の検討	305
	吉田 良 (関西医科大学 滝井病院 外科、緩和ケアチーム)	
014-4	オピオイド受容体拮抗薬Methylnaltrexone治験による死亡例	305
	近藤 彰 (医療法人若葉会)	
014-5	進行期非小細胞肺癌患者に対する、樹状細胞を用いたがんペプチドワクチン (通称: 樹状細胞ワクチン) による 臨床的有用性および予後因子の検討	306
	高橋 秀徳 (セレンクリニック 神戸、東京)	

015

第10会場(会議センター411+412) 6月21日(金) 14:00-15:30

臨床研究2

座 長: 森田 達也 (聖隷三方原病院 緩和支援診療科)

015-1	がん患者の終末期せん妄に対するクロロプロマジン持続皮下注射の前向き観察研究	306
	木村 洋輔 (筑波メディカルセンター病院 緩和医療科、恒貴会 大和クリニック)	
015-2	オピオイドによる悪心に対してのペロスピロン単回投与の改善率の検討	306
	田上 恵太 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科)	
015-3	フェンタニル3日用テープの日本人癌性疼痛患者を対象とした有効性、安全性及び薬物動態の検討	306
	吉野 裕司 (フェンタニル臨床研究会、石川県立中央病院外科、乳腺・内分泌外科)	
015-4	フェントステープとワンデュロパッチのはがれやすさの検討～患者および看護師の好みも含めて～	307
	高橋 孝輔 (愛知県がんセンター愛知病院 呼吸器内科)	
015-5	フェンタニル貼付剤の貼付部位の検討～はがれやすさの比較と患者・看護師の望む部位～	307
	岩本 斉子 (愛知県がんセンター愛知病院 看護部)	

016
身体的苦痛3

第11会場(会議センター414+415) 6月21日(金) 14:00-15:30

座 長：山口 重樹(獨協医科大学 医学部 麻酔科学講座)
金石 圭祐(東京厚生年金病院 緩和ケア科)

- 016-1 疼痛の原因が骨軟化症であった隣がんの一例……………307
里見 絵理子(国立病院機構大阪医療センター 緩和ケア内科)
- 016-2 子宮頸がん腸腰筋転移の股関節進展痛に対して、放射線療法導入に難渋した一例……………307
柏木 秀行(飯塚病院 緩和ケア科)
- 016-3 がん性胸膜炎の胸水貯留、肺炎治療においてNPPVが終末期の家族との関わりに重要な役割をになった一例……………308
緒方 正敏(赤磐医師会病院 内科)
- 016-4 S状結腸癌臀部痛に対するフレキシシール®を用いた排便管理……………308
小山 佐知子(公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 看護部、緩和ケアチーム)
- 016-5 終末期がん患者に対するステロイドの使用状況……………308
辻本 英範(JA静岡厚生連 清水厚生病院 緩和ケアチーム)
- 016-6 病棟看護師によるがん疼痛強度の過小評価の実態調査とリスク因子の探索……………308
石野 由樹(社会保険中京病院 緩和ケアチーム)

017
緩和ケアチーム3

第12会場(会議センター416+417) 6月21日(金) 14:00-15:30

座 長：大島 彰(独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター サイコオンコロジー科)
八戸 すず(順天堂大学医学部附属順天堂医院 緩和医療学研究室)

- 017-1 緩和ケアチーム(PCT)におけるリハビリテーションスタッフの活動について……………309
佐藤 義文(手稲溪仁会病院)
- 017-2 緩和ケアチーム発足後の現状と今後の課題について～アンケート調査の比較から考える～……………309
高橋 直樹(財団法人健和会大手町病院看護科)
- 017-3 緩和ケアチームの活動内容の変化と緩和薬物療法認定薬剤師の役割……………309
根岸 美由紀(深谷赤十字病院 緩和ケアチーム、薬剤部)
- 017-4 緩和医療チームに求められている責務の変化について……………309
竹内 信道(伊那中央病院 外科)
- 017-5 緩和ケア病棟における鍼灸治療の実態調査～チームケアにおける鍼灸師の役割の可能性について～……………310
高梨 知揚(東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科)
- 017-6 病院の機能特化に伴う緩和ケアチームの役割変化……………310
多田 幸雄(徳島県立中央病院 精神科)
- 017-7 緩和医療専従医7年間の成果から思うこと……………310
田中 俊行(高崎総合医療センター 緩和医療科)

018
その他

第14会場(会議センター419) 6月21日(金) 14:00-15:30

座 長：小原 弘之(県立広島病院 緩和ケア科)

- 018-1 MBOに対し消化管ステント治療を施行した10例……………310
和田 佐保(国立国際医療研究センター 外科)
- 018-2 緩和的人工肛門造設術による管理上の問題点と課題……………311
河内 由紀(関西医科大学附属滝井病院)
- 018-3 終末期がん患者における低血糖管理について～3症例を通じての考察～……………311
上元 洵子(岡山済生会総合病院 緩和ケア科)

018-4	麻薬拮抗薬投与が必要となった終末期がん患者の検討	311
	最上 恵子 (藤田保健衛生大学七栗サナトリウム 医療技術部 薬剤課)	
018-5	倦怠感を抱えながら化学療法を継続する消化器がん患者の治療継続の思い	311
	米丸 順子 (社団法人 八日会 藤元早鈴病院)	
018-6	震災後の陸前高田病院の医療サポートを経験して	312
	堂園 晴彦 (堂園メディカルハウス)	

019

小児の緩和ケア

第15会場(会議センター511+512) 6月21日(金) 14:00-15:30

座長: 松岡 真里 (四国こどもとおとなの医療センター)
永山 淳 (国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 緩和医療科)

019-1	化学療法施行中の小児がん患者に対する緩和ケアチームの取り組み	312
	杉下 美保子 (名古屋大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)	
019-2	がんの子どもも遊びたい～就学前患児の保育の改善～	312
	金井 理恵 (島根大学 医学部 小児科)	
019-3	小児在宅緩和ケアを行い自宅で見取った2症例の報告	312
	中村 幸伸 (つばさクリニック)	
019-4	就学前のがんの子どもが安心して過ごせる療育の場の調整と課題	313
	太田 桂子 (島根大学 医学部 附属病院 地域医療連携センター)	
019-5	小児専門病院における緩和ケアサポートチームのあり方(1)～アンケート調査から見えるもの～	313
	菊地 祐子 (東京都立小児総合医療センター 緩和ケアサポートチーム)	
019-6	小児専門病院における緩和ケアサポートチームのあり方(2)～看護師のアンケート調査から見えるもの～	313
	宮崎 隆 (東京都立小児総合医療センター 緩和ケアサポートチーム)	
019-7	頭痛、吐気・嘔吐を訴えながらも在宅療養を希望した小児脳腫瘍の1例	313
	渡辺 邦彦 (医療法人陽気会在宅ホスピスとちの木)	

一般演題 (口演) 6月22 (土)

020 CART

第9会場(会議センター313+314) 6月22日(土) 8:30-10:15

座長: 坂本 雅樹 (名古屋徳洲会総合病院 外科)
松崎 圭祐 (要町病院 腹水治療センター)

020-1	腹水中のIL-10は腹水濾過濃縮再静注法を施行した患者の予後と関連した	316
	伊藤 哲也 (東京大学 がんプロフェッショナル養成プラン、東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部、血液浄化療法部)	
020-2	癌性胸水に対して胸水濾過濃縮再灌流(CART)後に胸膜癒着術を施行し 胸水マネジメントが可能となった一症例	316
	末満 隆一 (原土井病院 緩和ケア科)	
020-3	癌終末期難治性腹水に対するCART (腹水濾過濃縮再静注法) について	316
	飯田 道夫 (J A北海道厚生連 札幌厚生病院 緩和ケア内科)	
020-4	難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法(KM-CART)による緩和治療	316
	鹿島 康薫 (とちの木病院 外科、緩和ケアチーム)	
020-5	KM-CARTのアルブミン回収率向上のための工夫	317
	三木 和美 (公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 ME室)	
020-6	CART (腹水濾過濃縮再静注法) はなぜ期待するほど普及しないのか	317
	行田 泰明 (要町病院 緩和ケア部)	
020-7	当院における難治性腹水症例に対する腹腔静脈シャント術の有用性の検討	317
	近藤 千紘 (愛知県がんセンター 中央病院 薬物療法部)	

020-8	難治性腹水に対しトルパブタンが奏効し在宅移行が可能になった、卵巣癌による癌性腹膜炎の一例	317
	濱口 明彦 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 内科、緩和ケアチーム)	

**021
在宅医療1**

第10会場(会議センター411+412) 6月22日(土) 8:30-10:00

座 長: 細矢 美紀 (独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター)
遠藤 光洋 (あおぞら診療所 新松戸)

021-1	お風呂に入りたい～若年者への介護サービス問題～	318
	儀間 真由美 (医療法人光風会 北山病院)	
021-2	ホスピス型賃貸マンションにおける在宅緩和ケア～最期まで自分らしく過ごすとは～	318
	村岡 幸代 (医療法人永仁会 千里ペインクリニック)	
021-3	がん末期患者の介護保険制度における位置づけと認定調査時期に関する検討	318
	相澤 佳代子 (ふじもと在宅緩和ケアクリニック)	
021-4	在宅終末期がん患者の呼吸困難にどう対応するか～在宅酸素療法症例についての検討～	318
	鈴木 道明 (ケアタウン小平クリニック)	
021-5	在宅医療における介護者の今後の役割	319
	日野 浩司 (東名厚木病院 外科)	
021-6	進行・再発がん患者の在宅療養支援情報共有ツール「私のカルテ」の試み	319
	瀬戸山 博 (独立行政法人 国立病院機構 滋賀病院 外科、滋賀県がん診療連携協議会 地域連携部会)	
021-7	離島における在宅緩和ケアの現状と今後の課題	319
	福浦 祐子 (隠岐広域連立立隠岐病院)	

**022
身体的苦痛4**

第11会場(会議センター414+415) 6月22日(土) 8:30-10:00

座 長: 池垣 淳一 (兵庫県立がんセンター)
松尾 直樹 (外旭川病院)

022-1	消化器癌の疼痛緩和におけるフェンタニルパッチの有用性	319
	建部 茂 (鳥取大学 医学部 病態制御外科)	
022-2	肝硬変を背景とする胆癌患者に対する疼痛緩和治療におけるオピオイド使用の現状	320
	田尻 和人 (富山大学附属病院 第三内科)	
022-3	黄疸に伴う掻痒感に対してパロキセチン投与が有効であった5例	320
	小石 恭士 (星ヶ丘厚生年金病院 緩和ケア科)	
022-4	癌性腹膜炎に伴う腹水・浮腫へのトルパブタンの効果についての検討	320
	竹井 清純 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)	
022-5	大腸・直腸がんによる下部消化管狭窄に対する化学放射線療法の適応の検討	320
	清水 わか子 (君津中央病院 放射線治療科)	
022-6	閉塞性大腸癌に対して緩和治療目的に消化管ステント留置術を施行した3例	321
	渡部 秀樹 (地方独立行政法人 三重県立総合医療センター)	
022-7	当院における悪性消化管狭窄に対するステント留置術の検討	321
	西原 彰浩 (箕面市立病院 緩和ケアチーム、消化器内科)	

**023
地域連携1**

第12会場(会議センター416+417) 6月22日(土) 8:30-10:00

座 長: 星野 彰 (岩手県立中部病院)
古口 契児 (福山市民病院 緩和ケア科)

023-1	病診連携および近医の協力により二度の退院が可能であった乳癌ターミナルケアの1例	321
	加藤 弘幸 (尾鷲総合病院 NST & CP complex(NCC))	

023-2	外来がん患者ががん化学療法中止と療養場所の移行を受けとめていくプロセス	321
	塩井 厚子 (埼玉医科大学国際医療センター 看護部)	
023-3	がん患者の口腔評価における医科歯科連携	322
	高橋 知子 (独立行政法人国立病院機構大分医療センター)	
023-4	医療従事者の希望する療養場所	322
	中村 陽一 (東邦大学医療センター大橋病院 緩和ケアチーム)	
023-5	経過中に転院を経験したがん患者に対する支援についての考察	322
	岩佐 美佳 (薫風会 佐野病院)	
023-6	がん難民「ゼロ」をめざす横浜市鶴見区の緩和ケア連携と課題	322
	高橋 修 (医療法人平和会 平和病院緩和ケア科、つるみ在宅ケアネットワーク)	
023-7	在宅緩和ケアチーム訪問の有用性検証を目的としたインタビュー調査	323
	藤川 泰永 (富山県済生会高岡病院 緩和ケアチーム)	

024 教育

第13会場(会議センター418) 6月22日(土) 8:30-10:15

座 長： 山本 亮 (佐久総合病院 緩和ケア科)
清水 佐智子 (鹿児島大学医学部 保健学科)

024-1	秋田県中高生に対するがん教育の試み	323
	安藤 秀明 (秋田大学大学院医学系研究科)	
024-2	ストーリーを用いた職員・地域住民への緩和ケア教育プログラムの開発	323
	春田 淳志 (東京大学 がんプロフェッショナル 緩和ケアコース、王子生協病院 家庭医療科、 東京大学 医学教育国際協力研究センター)	
024-3	「死」をテーマにした研修会の有用性	323
	岡本 亜紀 (奈良県立五條病院 緩和ケアチーム)	
024-4	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム受講後の看護師の変化 ～宝塚市立病院主催ELNEC-J終了後3ヵ月アンケート結果からの検討～	324
	伊藤 由美子 (兵庫県立がんセンター 看護部)	
024-5	がん医療で働く心理士が抱える問題・課題について～心理士が感じる困難さから～	324
	岩満 優美 (北里大学 大学院医療系研究科 医療心理学)	
024-6	初期研修医の緩和ケアに対する意識	324
	友利 寛文 (那覇市立病院)	
024-7	骨転移に対する院内横断的協働と教育のための天理骨メタプロジェクト ～第1報「骨メタ劇場」の企画・開催～	324
	久須美 房子 (公益財団法人 天理よろづ相談所病院 緩和ケアセンター、疼痛等緩和ケア対策チーム)	
024-8	緩和ケアチームによる機械式PCAポンプセミナー実施後の評価	325
	丸谷 晃子 (金沢大学附属病院 看護部、緩和ケアチーム)	

025 代謝・栄養療法1

第14会場(会議センター419) 6月22日(土) 8:30-10:00

座 長： 三木 誓雄 (伊賀市立上野総合市民病院)
谷口 正哲 (大隈病院 外科)

025-1	高カロリー輸液使用のがん緩和ケア対象患者に対する血糖管理に関する考察	325
	児玉 佳之 (社会医療法人社団カレスサポロ 時計台記念病院 消化器センター、法人本部がん医療推進室、栄養管理部)	
025-2	望ましいAHN導入のための取り組み～終末期の迎え方を考えるための新たなシートの試み 第1報～	325
	上杉 梨沙 (医療法人 洞仁会 洞爺温泉病院 栄養課)	
025-3	望ましいAHN導入のための取り組み～終末期の迎え方を考えるための新たなシートの試み 第2報～	325
	中谷 玲二 (医療法人 洞仁会 洞爺温泉病院 内科)	

025-4	終末期がん患者に対するアミノ酸ゼリーの有用性を調べる前向き探索試験326 石木 寛人 (国立がん研究センター東病院 頭頸部内科)
025-5	緩和ケア病棟における終末期がん患者に対する栄養サポートの効果の検討326 天野 晃滋 (彩都友誼会病院 緩和ケア科)
025-6	担当栄養士が継続的に介入した当院緩和ケア病棟の食事への取り組み ～最期まで食べたいと思う気持ちに沿った食事支援～326 首藤 智美 (大分市医師会立アルメイダ病院 栄養管理室)
025-7	栄養管理によって患者の希望を叶えた1事例326 林 靖子 (NHO四国がんセンター 看護部)

**026
リハビリテーション1**

第15会場(会議センター511+512) 6月22日(土) 8:30-10:15

座 長: 佐藤 恭子 (静岡厚生病院 リハビリテーション科)
辻 哲也 (慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室)

026-1	リハビリにて在宅復帰が可能であった末期大腸癌患者の1例327 横山 義信 (飛騨市民病院 外科)
026-2	緩和ケア病棟におけるトイレ歩行に関する実態調査327 工藤 由紀 (国立メディカルケア)
026-3	終末期がん患者へのリハビリテーション介入がQOLへ及ぼす影響について327 近藤 心 (徳島大学病院 リハビリテーション部)
026-4	当院緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの実際327 柳沢 博 (戸田中央総合病院 緩和医療科)
026-5	がんのリハビリテーションはグリーフケアに影響を与えるか328 田中 成和 (独立行政法人 国立病院機構 長崎病院)
026-6	客観的身体機能と主観的QOLはリハビリ介入前後でどのように相関するか: J-REACT328 間間 愛 (亀田総合病院 リハビリテーション室)
026-7	進行がん患者の廃用症候群に対するリハビリテーションはQOLの維持に貢献している可能性がある: J-REACT328 緒方 政美 (聖隷三方原病院 リハビリテーション部)

**027
放射線療法**

第9会場(会議センター313+314) 6月22日(土) 10:15-12:00

座 長: 清水 わか子 (君津中央病院 放射線治療科)
本家 好文 (広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア科)

027-1	緩和ケアにおける放射線治療の役割328 大熊 加恵 (東京大学 医学部附属病院 緩和ケア診療部)
027-2	地方急性期病院における脊髄圧迫症例の治療開始期間と臨床症状転帰の検討329 工藤 千枝子 (みやぎ県南中核病院 腫瘍内科)
027-3	当院で緊急照射を施行した悪性腫瘍による脊髄圧迫21例の検討329 和田 仁 (宮城県立がんセンター 放射線治療科)
027-4	当院における出血制御目的での放射線治療についての検討329 小島 美保 (小牧市民病院 緩和ケア科)
027-5	多発性脳転移を有するがん患者に対する全脳照射の緩和医療としての意義329 久我 貴之 (長門総合病院 緩和ケアチーム、外科)
027-6	ガンマナイフ放射線治療: Best Supportive Care段階の脳転移患者に対する意義330 近藤 威 (慈恵会 新須磨病院 ガンマナイフ治療センター)
027-7	下肢浮腫を来した前立腺癌骨盤リンパ節転移へのサイバーナイフ治療が有効であった1例330 石田 勝 (済生会横浜市東部病院 泌尿器科)

027-8	メタストロン治療を受けている患者の体験と対処方法.....	330
	井関 千裕 (地方独立行政法人 堺市立病院機構 市立堺病院)	

**028
在宅医療2**

第10会場(会議センター411+412) 6月22日(土) 10:00-11:00

座 長: 山岡 憲夫 (やまおか在宅クリニック)

028-1	生活保護利用者の在宅移行～その障壁と大局からみた場合の不条理～.....	330
	松添 大助 (今給黎総合病院 緩和医療科)	
028-2	急性期病院からみた在宅移行への障壁～外科病棟における長期入院癌患者の解析より～.....	331
	福本 和彦 (磐田市立総合病院 外科)	
028-3	緩和ケア病棟から在宅緩和ケアへの移行に影響する因子の検討.....	331
	天野 晃滋 (彩都友誼会病院 緩和ケア科)	
028-4	円滑な在宅医療を目指して～在宅療養支援診療所の立場から～.....	331
	佐藤 浩平 (秋田往診クリニック)	
028-5	難治性小児脳腫瘍患者に対する在宅緩和医療の実現について.....	331
	柳澤 隆昭 (埼玉医科大学国際医療センター 小児脳脊髄腫瘍部門、脳脊髄腫瘍科)	

**029
全人的苦痛2**

第11会場(会議センター414+415) 6月22日(土) 10:00-11:00

座 長: 伊藤 浩明 (岐阜県立多治見病院 緩和ケア病棟)

029-1	東日本大震災における支援について考える～緩和ケアを提供する医療者に対して～.....	332
	村上 雅彦 (岩手県立大船渡病院 緩和ケアチーム)	
029-2	東日本大震災被災地における緩和ケアチーム活動の問題点と課題.....	332
	村上 雅彦 (岩手県立大船渡病院 緩和ケアチーム)	
029-3	気管切開を施行した終末期頭頸部がん患者の様子と 思い～問題点は何か?どの様にすればQOLを高められるか?～.....	332
	岡野 博之 (第二岡本総合病院 耳鼻咽喉科)	

**030
地域連携2**

第12会場(会議センター416+417) 6月22日(土) 10:00-11:00

座 長: 平方 眞 (医療法人愛和会 愛和病院)

030-1	在宅緩和医療の実現へ向けて病院ができること.....	332
	有田 圭介 (埼玉協同病院 内科、在宅医療室、緩和ケアチーム、筑波メディカルセンター 在宅ケア事業)	
030-2	地域中核病院としての緩和医療の実践～後方支援体制を中心に～.....	333
	清水 義博 (社会医療法人岡本病院 (財団) 第二岡本総合病院 外科)	
030-3	がん診療連携拠点病院との連携により地域一般病院緩和ケア外来から在宅診療を導入する試み.....	333
	佐野 広美 (医療法人財団慈生会 野村病院 緩和ケア内科)	
030-4	当院緩和ケア内科外来開設後に地域連携によって行なわれた療養場所の選択と在宅看取りの実際 (2012年4月より12月まで).....	333
	李 美於 (神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科)	

座 長：小西 達也(武蔵野大学 教養教育部会/看護学部)
鄭 陽(聖隷三方原病院 ホスピス科)

- 031-1 緩和ケア病棟入院中に患者と家族が交わす思いと言葉に関する量的研究(J-HOPE2)
～果たして思いは言葉にしないと伝わらないのか?～……………333
中里 和弘(東京都健康長寿医療センター研究所)
- 031-2 看取り期におけるケアの現状～LCP導入に向けた現状評価～……………334
奥山 梓(JA静岡厚生連 清水厚生病院 緩和ケアチーム)
- 031-3 だれががん患者の最期を決断しているのか～横浜市立大学附属病院、臨床腫瘍科・乳腺外科での経験～……………334
市川 靖史(横浜市立大学 臨床腫瘍科学)
- 031-4 急性期一般病院での終末期がん患者・家族への看護において看護師が感じている困難感……………334
加藤 恵(武蔵野赤十字病院)
- 031-5 NBNの視点からより良い「看取り」を考察する……………334
佐藤 亜紀(社会医療法人大和会 在宅サポートセンター 東大和訪問看護ステーション)
- 031-6 当病棟におけるデスカンファレンスの現状と改善点……………335
進邦 真由子(前橋赤十字病院 9号病棟、かんわ支援チーム)

座 長：武内 有城(名古屋記念病院 外科・救急部)

- 032-1 終末期がん患者に対する静脈カテーテル選択と留置期間についての検討……………335
中川 理子(藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座)
- 032-2 終末期がん患者の輸液・栄養～当院外科の場合～……………335
三村 卓司(社会医療法人 緑社会 金田病院)
- 032-3 トシリズマブ(抗IL-6受容体抗体)によりがん悪液質が改善し、
化学療法を再開することができた進行非小細胞肺癌の2例……………335
合屋 将(大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 緩和ケア科)
- 032-4 栄養指導を施行した外来化学療法患者のPG-SGAならびに体重変化と予後の関連について……………336
伊藤 明美(名古屋市立大学病院 栄養管理係)
- 032-5 原発不明癌による腹膜播種(扁平上皮癌)のため十二指腸狭窄・直腸狭窄を来した症例の経験
～緩和ケアチーム・栄養サポートチームの関わり～……………336
小野 桂(山形市立病院済生館緩和ケアチーム)

座 長：安部 能成(千葉県立保健医療大学 健康科学部 リハビリテーション学科)
中山 紀子(手稲溪仁会病院)

- 033-1 緩和ケア病棟における理学療法の実践……………336
山崎 祐子(医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院)
- 033-2 機能的自立度評価法を使用した終末期がん患者の日常生活動作自立度の調査報告……………336
池端 隆一(社会医療法人社団 カレスサッポロ 時計台記念病院 リハビリテーション部)
- 033-3 肺がんと慢性呼吸器疾患における終末期リハビリテーションの検討……………337
岩城 基(要町病院 リハビリテーション科)
- 033-4 当院におけるがん保存療法患者に対するリハビリテーション効果～ADLの維持について～……………337
畑 慶弥(手稲溪仁会病院)

033-5	進行期・終末期がん患者における嚥下障害に関する検討	337
	大野 綾 (聖隷浜松病院 リハビリテーション科)	
033-6	終末期がん患者に対する訪問リハビリテーションの役割	337
	三原 絵美 (たたらリハビリテーション病院 リハビリテーションセンター)	
033-7	進行終末期がん患者における理学療法の役割 ～ “歩く事” の意味について考える～	338
	福永 浩明 (大阪府済生会泉尾病院 リハビリテーションセンター)	
033-8	緩和ケアリハビリテーションにおける患者の希望表明の時期についての検討	338
	西山 菜々子 (大阪府済生会 泉尾病院 リハビリテーションセンター)	

**034
在宅医療3**

第10会場(会議センター411+412) 6月22日(土) 11:00-12:00

座 長:小澤 竹俊 (めぐみ在宅クリニック)

034-1	在宅療養に必要なこと～在宅療養から病院での看取りとなった患者の調査から～	338
	長谷川 亜樹 (岡山赤十字病院 緩和ケア科、緩和ケアチーム)	
034-2	緩和ケア外来患者の在宅看取り	338
	黒木 嘉人 (国民健康保険 飛騨市民病院 緩和ケア外来、飛騨市訪問看護ステーション)	
034-3	「在宅に行くと寿命が短くなる」のか?	339
	村上 望 (富山県済生会高岡病院 緩和ケア委員会)	
034-4	心肺停止状態で救急搬送されたがん終末期患者の検討～幸せに逝くために～	339
	篠原 浩一 (八潮中央総合病院 腫瘍・緩和ケア科、緩和ケアチーム)	
034-5	在宅でがん緩和ケアを受けている患者を対象とした容体急変時等の病床確保事業を利用した患者の特徴	339
	竹下 啓 (北里大学 北里研究所病院 内科)	

**035
症状制御**

第11会場(会議センター414+415) 6月22日(土) 11:00-12:00

座 長:行田 泰明 (医療法人社団げんき会 久保田げんきクリニック)

035-1	オピオイド使用慢性便秘患者におけるルビプロストロンの有用性の可能性について	339
	山崎 圭一 (ベルランド総合病院 外科・乳腺センター、緩和ケアチーム)	
035-2	オランザピンの食欲増進作用についての後方視的研究	340
	後藤 宏顕 (江戸川病院 腫瘍血液内科)	
035-3	難治性皮膚掻痒感に対してプレガバリンが著効した1例	340
	柴原 弘明 (豊田厚生病院 緩和ケア科)	
035-4	当院呼吸器内科入院患者におけるせん妄を来した患者の転帰・背景に関する検討	340
	志津 匡人 (地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院 呼吸器内科)	

**036
地域連携3**

第12会場(会議センター416+417) 6月22日(土) 11:00-12:00

座 長:長谷川 美栄子 (医療法人 東札幌病院 看護部)

036-1	在宅緩和ケア地域連携パス適用患者の転帰	340
	坂下 美彦 (千葉県がんセンター サポートケア室、緩和医療科)	
036-2	シームレスな緩和ケアへの移行を目指して	341
	渡辺 剛 (バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック)	
036-3	熊本東部地区地域緩和ケア5年間の歩み～顔の見える関係の構築を目指して～	341
	吉田 稔 (熊本赤十字病院緩和ケアサポートチーム)	

- 036-4 地域がんサポートチームによる訪問活動が在宅移行に与える影響～チーム活動開始前後の比較～……………341
橋本 淳（愛知県がんセンター愛知病院）
- 036-5 大学病院の医師は地域連携で何を困難に感じているのか……………341
坂下 明大（神戸大学 医学部 附属病院 緩和ケアチーム）

**037
多職種協働1**

第14会場（会議センター419） 6月22日（土） 11:00-12:00

座 長：川越 正平（あおぞら診療所）

- 037-1 がん患者家族会へのリハビリテーション的関わりから得られた今後の課題……………342
北 智幸（社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院 リハビリテーション室）
- 037-2 人生の終わりに知り合せて～個々に合わせた がんリハビリテーションの関わり～……………342
藤倉 朋子（取手北相馬保健医療センター 医師会病院）
- 037-3 がん相談支援室における患者家族の意思決定支援に関するMSWの役割……………342
船奥 あゆみ（大阪大学医学部附属病院 保健医療福祉ネットワーク部）

**038
手術療法1**

第9会場（会議センター313+314） 6月22日（土） 14:30-15:30

座 長：小林 孝一郎（富山赤十字病院 呼吸器外科）

- 038-1 消化器症状緩和のためのガイドラインを考慮した緩和手術の取り組み……………342
吉田 良（関西医科大学 滝井病院 外科、緩和ケアチーム）
- 038-2 癌性腹膜炎による難治性腹水に対し腹腔静脈シャント術を行い、長期生存中の1例……………343
橋本 芳正（いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケア外科）
- 038-3 進行再発乳癌症例における緩和的手術療法の意義は？……………343
三木 仁司（医療法人倚山会 田岡病院 乳腺甲状腺科、緩和ケア科）
- 038-4 胃空腸バイパスの効果と適応……………343
益満 幸一郎（鹿児島共済会 南風病院 外科）
- 038-5 緩和ケア病棟における脳神経外科的治療の意義……………343
相原 英夫（兵庫県立加古川医療センター 脳神経外科）

**039
訪問看護**

第10会場（会議センター411+412） 6月22日（土） 14:30-15:00

座 長：横江 由理子（国立長寿医療研究センター）

- 039-1 がんを含む慢性疾患患者の「ターミナル期」における看護師の予後予測(第1報)
：訪問看護ステーション看護師の調査から……………344
酒井 昌子（聖隷クリストファー大学看護学部）
- 039-2 がんを含む慢性疾患患者に対する訪問看護ステーション看護師の予後予測(第3報)
：看取り体制と本人・家族の意向確認に焦点をあてて……………344
片山 陽子（香川大学 医学部 看護学科）

**040
ペインクリニック1**

第11会場（会議センター414+415） 6月22日（土） 14:30-15:30

座 長：齊藤 洋司（島根大学医学部 麻酔科学講座）

- 040-1 甲状腺がんの上腕骨転移・皮膚転移による痛みの緩和に持続腕神経叢ブロックが有効であった1症例……………344
須藤 一郎（島根大学医学部附属病院緩和ケアセンター）
- 040-2 中等度から高度の癌性疼痛患者を対象としたタペンタドール徐放錠の有効性及び安全性をオキシコドン徐放錠と比較する日韓共同、二重盲検、第3相臨床試験（KAJ-CO2試験）……………344
今中 啓一郎（ヤンセンファーマ株式会社 研究開発本部）

- 040-3 癌性疼痛患者を対象として他オピオイド治療からタペンタドール徐放錠への切り替え後の有効性・安全性を確認する第3相臨床試験（JPN-CO3試験）……………345
今中 啓一郎（ヤンセンファーマ株式会社 研究開発本部）
- 040-4 持続硬膜外ポート挿入によって一般病院から在宅医療に移行できた1例……………345
三浦 邦久（医療法人社団 順江会 江東病院 麻酔科）
- 040-5 トラマドールからモルヒネへの切り替え時に高度な呼吸抑制をきたした1例……………345
周東 千緒（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

O41 医療体制 第12会場(会議センター416+417) 6月22日(土) 14:30-15:00

座 長：下妻 晃二郎（立命館大学 生命科学部 生命医科学科）

- 041-1 在宅緩和ケアにおける病院認定看護師と訪問看護師による同行訪問の評価……………345
高島 留美（富山県済生会高岡病院 緩和ケア委員会）
- 041-2 医療用麻薬廃棄処分に関する考察……………346
筒井 哲也（岡山中央奉還町病院 緩和ケア科）

O42 家族ケア 第13会場(会議センター418) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：栗原 幸江（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

- 042-1 学童期の子どもを抱える終末期肺がん患者と家族への介入の一例～緩和ケアにおける臨床心理士の役割～……………346
畑 祥子（彩都友誼会病院 緩和ケアチーム）
- 042-2 がんで母親を亡くした「父親と子ども」の相互作用～父親の認識から～……………346
田中 一未（聖路加国際病院、東京大学 大学院 医学系研究科 家族看護学分野）
- 042-3 終末期の家族に関わる看護の実際～家族の精神的健康を整える看護援助～……………346
大久保 佳津美（福井県済生会病院 緩和ケア病棟）
- 042-4 家族ケアはなぜ大切なのか？……………347
下山 理史（愛知県がんセンター中央病院 緩和ケア科）
- 042-5 ご遺体へのケアを看護師が家族と一緒にすることについての家族の体験・評価……………347
山脇 道晴（聖隷三方原病院 看護部）

O43 多職種協働2 第14会場(会議センター419) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：濱口 恵子（公益財団法人がん研究会有明病院）

- 043-1 当院におけるがん性疼痛緩和指導管理料算定に向けた取り組みと今後の課題～がん性疼痛緩和指導の充足に向けて～……………347
海津 未希子（東京大学医学部附属病院 緩和ケアチーム）
- 043-2 PC操作に不慣れな職員を抱える中山間区病院における情報の共有化……………347
本田 正宏（雲南市立病院）
- 043-3 当院における骨関連事象カンファレンスでの検討内容について入院加療を行った乳がん患者を対象とした調査より……………348
阿瀬 寛幸（順天堂大学 医学部 附属順天堂医院 リハビリテーション室）
- 043-4 退院支援における連携ストレス・ロスをなくす～真のチーム医療とは地域連携が不可欠～……………348
川嶋 麻有（市立千歳市民病院 看護部、緩和ケアチーム）
- 043-5 管理栄養士が患者と家族に寄り添い作り上げた物語から生み出したメニューの意義……………348
川口 美喜子（島根大学 医学部附属病院 栄養サポートセンター、緩和ケアセンター）

座 長：鎗野 りか (公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 看護部)

- 044-1 SF-36のリンパ浮腫治療に関する治療反応性の検討……………348
中山 紀子 (慶應義塾大学大学院 医学研究科)
- 044-2 弾性包帯や弾性着衣を使用できない患者に対する筒状包帯とウェーブスポンジによる治療効果の検討……………349
近藤 さえ子 (伊那中央病院)
- 044-3 長期間炎症症状を呈するリンパ浮腫患者の圧迫療法の検討……………349
入江 佳子 (筑波大学附属病院 緩和ケアセンター)
- 044-4 病勢進行による高度腎不全を併発した子宮癌術後の下腿リンパ管炎の局所感染コントロールにおいて
銀含有ハイドロファイバーが有効であった一例……………349
山崎 圭一 (ベルランド総合病院 外科・乳腺センター、緩和ケアチーム)
- 044-5 リンパ浮腫早期発見を目的とした邦人女性のインピーダンス指数標準値試案……………349
西川 智子 (大阪府立大学 総合リハビリテーション学部 作業療学科)

座 長：坂本 宣弘 (名古屋市立大学病院 緩和ケア部)

井手 宏 (愛知国際病院 ホスピス)

- 045-1 一般外来におけるがん看護専門相談の実績と今後の課題……………350
熱方 智和子 (聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター緩和医療部会、看護部 内科外来)
- 045-2 がん看護専門外来における電話対応の実態……………350
沼田 靖子 (釧路孝仁会記念病院 外来)
- 045-3 緩和ケア病棟における在院日数短縮化への取り組み～緩和ケア外来開設を通して～……………350
東村 悦子 (誠心会 井上病院 医療ソーシャルワーカー)
- 045-4 当院緩和ケア科における緊急入院症例の検討……………350
加藤 聡彦 (医療法人平和会 平和病院 緩和ケア科)
- 045-5 がん診療連携拠点病院15施設に対する「がん患者サロン」調査結果報告～その1～……………351
阿部 まゆみ (名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻)
- 045-6 がん診療連携拠点病院15施設に対する「がん患者サロン」調査結果報告～その2～……………351
藤本 喜久恵 (名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻 博士課程前期課程2年、名古屋第一赤十字病院 看護部)
- 045-7 がん患者の有症率・相談支援ニーズとバリアに関する多施設調査……………351
小川 朝生 (国立がん研究センター 東病院 臨床開発センター 精神腫瘍学開発分野)

座 長：儀賀 理暁 (埼玉医科大学総合医療センター 呼吸器外科・緩和ケア推進室)

- 046-1 30代の母親の死を小学生の子供たちに伝えるために医療者は何ができるか?……………351
西村 幸祐 (医療法人社団誠広会 岐阜中央病院 緩和ケア科)
- 046-2 ハーモニカによる音楽療法の心のケアに有効であった終末期子宮がんの1例
～医師によるベッドサイドでの試み～……………352
西村 大作 (JA愛知豊田厚生病院 緩和ケア病棟)
- 046-3 患者と家族の不安解消に“タッピング・タッチ”が奏功した一例
～終末期における心理的発達課題の達成へ～……………352
清水 智子 (総合上飯田第一病院 緩和ケアチーム、株式会社ソフィアカウンセリング)

- 046-4 急性期病院における癒し環境を提供するための工夫
～緩和ケアリンクナースによる「やすらぎティータイム」の活動報告～……………352
村上 祥子（地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院 緩和ケアチーム）

**047
手術療法2**

第9会場(会議センター313+314) 6月22日(土) 15:30-16:30

座 長：木所 昭夫（順天堂大学医学部附属浦安病院 がん治療センター）

- 047-1 食道がんによる食道狭窄に対して逆流防止弁付き食道ステントを使用し良好な経過を得た一例……………352
高橋 徹（社会医療法人同心会 古賀総合病院）
- 047-2 悪性幽門狭窄に対する内視鏡的胃十二指腸ステント留置術の有効性と安全性の検討……………353
那須 淳一郎（岡山大学病院 消化器内科）
- 047-3 悪性十二指腸狭窄に対する十二指腸ステントの有用性……………353
岡 義雄（西宮市立中央病院 外科）
- 047-4 結腸・直腸閉塞に対し、緩和的治療として腸管ステントを留置した2例……………353
太田 尚宏（厚生連高岡病院外科）
- 047-5 悪性大腸閉塞に対する大腸ステント挿入術と姑息的手術の緩和的意義についての検討……………353
長谷川 圭（千葉西総合病院 外科）

**048
ペインクリニック2**

第11会場(会議センター414+415) 6月22日(土) 15:30-16:30

座 長：阿部 文明（山梨県立中央病院 麻酔科）

- 048-1 高度進行性腎不全患者に対するオキシコドン注射剤の使用経験……………354
山崎 圭一（ベルランド総合病院 外科・乳腺センター、緩和ケアチーム）
- 048-2 純粋オキシコドン注射剤(オキファスト[®])の登場による治療の変化……………354
高橋 有我（独立行政法人 国立病院機構 西群馬病院 緩和ケア科）
- 048-3 当科におけるoxycodone注射剤の使用経験～消化器癌患者6例の検討～……………354
栗山 翔（日本医科大学付属病院 消化器外科）
- 048-4 フェンタニル1日貼付型経皮吸収製剤の直接比較
～病棟看護師が「扱いやすい・貼りやすい」と評価したのは、フェントスカワンデュロか～……………354
高橋 正裕（医療法人財団 姫路聖マリア会 姫路聖マリア病院）

**049
遺族ケア**

第13会場(会議センター418) 6月22日(土) 15:30-16:30

座 長：坂口 幸弘（関西学院大学人間福祉学部 人間科学科）

- 049-1 死別体験者とその死別続柄における死生観に関する一考察……………355
柿沼 和秀（早稲田大学 大学院人間科学研究科、人間科学学術院）
- 049-2 壮年期の夫ががんと診断されてから死別後に生じた妻の肯定的自己イメージ……………355
藤田 かおり（医療法人社団 洛和会 洛和会音羽病院、京都府立医科大学 大学院 保健看護研究科 修士課程）
- 049-3 緩和ケア病棟における看取りを経験した遺族の思い……………355
岩尾 明美（社会医療法人 博愛会 相良病院）

**050
多職種協働3**

第14会場(会議センター419) 6月22日(土) 15:30-16:30

座 長：野村 史郎（名古屋第一赤十字病院 呼吸器内科、化学療法内科）

- 050-1 医療用麻薬を注射のまま退院する院内マニュアルを作成して～地域連携を念頭に～……………355
小林 頼子（安城更生病院 緩和ケア内科）

050-2	新規作製した小型シリンジポンプ (TE-361) 固定器具が看護師業務に与える影響についての検討……………356 奥村 佳美 (小牧市民病院 緩和ケアチーム)
050-3	地域がん診療連携拠点病院における、 突出痛に対するシリンジポンプによる統一オピオイドレスキュー投与システムの構築……………356 齋藤 雄紀 (東海大学 医学部 外科学系 乳腺内分泌外科学、付属病院 緩和ケアチーム)
050-4	多職種協働による医療用麻薬注射剤調製システムの効果……………356 上葛 義浩 (藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 医療技術部薬剤課、医学部 外科・緩和医療学講座)

**051
口腔ケア**

第15会場(会議センター511+512) 6月22日(土) 15:30-16:30

座 長: 大野 友久 (聖隷三方原病院 歯科)

051-1	抗がん剤治療の副作用による口腔内病変をきたしたがん患者15例の検討……………356 山川 治 (公立藤岡総合病院 歯科)
051-2	緩和医療における「周術期の口腔機能管理」の活用について……………357 花岡 宏美 (兵庫医科大学病院 歯科口腔外科)
051-3	がん患者の口腔状態と緩和ケアチーム介入による変化……………357 我妻 孝則 (金沢医科大学病院 緩和ケアチーム)
051-4	緩和ケア病棟と院内歯科の連携～緩和ケア病棟患者への歯科介入～……………357 向山 仁 (横浜市立みなと赤十字病院歯科口腔外科、昭和大学歯学部歯科補綴学教室)
051-5	当院における終末期がん患者の口腔ケアに対する意識調査……………357 小川 雅子 (JA秋田厚生連 秋田組合総合病院 看護部)

**052
QOL**

第12会場(会議センター416+417) 6月22日(土) 15:50-16:30

座 長: 池永 昌之 (淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院)

052-1	がん患者のための意思決定看護支援プログラムに関する実施可能性……………358 川崎 優子 (兵庫県立大学 看護学部)
052-2	がんサバイバーの希望を支えるケアの継続を目指して ～ QOLを維持し外来で術前化学放射線治療を完遂した一症例～……………358 安藤 恵子 (医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院)
052-3	集学的治療によりQOLが著明に改善した進行乳癌の1例……………358 沖代 格次 (関西労災病院 外科)

一般演題 (優秀ポスター)

**BP1
優秀ポスター1**

ポスター会場(展示ホール 特設ステージA) 6月21日(金) 14:30-15:30

座 長: 平井 啓 (大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室)
志真 泰夫 (筑波メディカルセンター病院 緩和医療科)

BP1-1	看護師による臨終前後の患者と家族の看取りのケアに関する実践と看取りのケアに対する 困難感の関連要因の探索……………360 菅野 雄介 (東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野)
BP1-2	看護師による臨終前後の患者と家族の看取りのケアの質を評価する尺度の信頼性と妥当性の検証……………360 菅野 雄介 (東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野)
BP1-3	がん患者の子どもへのサポートプログラム日本版の作成 (1) ～ CLIMB [®] プログラムの実施と普及～……………360 小林 真理子 (放送大学大学院)
BP1-4	がん患者の子どもへのサポートプログラム日本版の作成 (2) ～ CLIMB [®] プログラムにおけるがん教育パッケージの作成～……………360 村瀬 有紀子 (東京医科歯科大学附属病院 小児科)

BP1-5	緩和ケア外来初診時における心理士による心理的アセスメントの有用性に関する検討……………361 加藤 由貴（小牧市民病院緩和ケア科）
BP1-6	がん患者の終末期QOLおよび遺族QOLに関連する要因についての予備的調査……………361 羽多野 裕（京都市立医科大学附属病院 精神科・心療内科）

**BP2
優秀ポスター2**

ポスター会場(展示ホール 特設ステージB) 6月21日(金) 14:30-15:30

座長： 照井 健（東札幌病院 内科）
足立 誠司（鳥取市立病院 診療部、地域医療総合支援センター）

BP2-1	2010年の全死亡およびがん死亡の都道府県別自宅死亡割合と医療社会的指標の地域相関分析……………361 宮下 光令（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）
BP2-2	在宅緩和ケア対応薬局のネットワーク化と情報提供……………361 前田 桂吾（株式会社フロンティアファーマシー）
BP2-3	調剤薬局における緩和医療領域の薬剤使用量及びその服薬指導の現状……………362 小林 篤史（ゆう薬局グループ）
BP2-4	がん患者の死亡場所に関連する要因 死亡票の分析……………362 五十嵐 美幸（東北大学 医学系研究科 保健学専攻 老年保健看護学分野）
BP2-5	在宅緩和ケアを担う訪問看護師の実践能力～教育プログラム作成の基礎資料として～……………362 渡邊 美也子（緩和ケア訪問看護ステーション連絡会）
BP2-6	地域緩和ケアコンサルテーションチームの展望（予備的調査） ～アウトリーチによる緩和ケアに関する医療者の困難感の軽減の取り組み～……………362 大谷 弘行（九州がんセンター 緩和ケアチーム）
BP2-7	デスカンファレンスで地域ネットワークを広げよう～切れ目のない緩和ケアを提供するために～……………363 内野 奈美子（姫路聖マリア病院）

**BP3
優秀ポスター3**

ポスター会場(展示ホール 特設ステージA) 6月22日(土) 15:30-16:30

座長： 山口 佳之（川崎医科大学 臨床腫瘍学）
小池 和彦（医療法人社団 東札幌病院 緩和ケア科）

BP3-1	早期からの緩和ケアの重要性……………363 木村 彩（三友堂病院 地域緩和ケアサポートセンター）
BP3-2	遺族によるケアの質の評価に関する研究J-HOPE2-study ～日本ホスピス緩和ケア協会会員施設で亡くなった患者の遺族を対象とした全国的大規模質問紙調査～……………363 清水 恵（J-HOPE2運営委員会、東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）
BP3-3	疼痛緩和にむけた緩和ケアチームの今後の活動について～「痛みの観察シート」を作成して～……………363 色摩 慶子（山形市立病院済生館）
BP3-4	緩和ケアチームの外来患者の電話相談の現状……………364 高橋 玲子（社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院）
BP3-5	筋萎縮性側索硬化症の終末期における苦痛症状に対する薬物療法について……………364 八本 久仁子（独立行政法人 国立病院機構 柳井医療センター 薬剤科）
BP3-6	山梨大学医学部附属病院における非がん患者における緩和ケアの現状……………364 熊倉 康友（山梨大学 医学部 麻酔科、山梨大学医学部附属病院 医療チームセンター）
BP3-7	慢性心不全患者に対する緩和ケアチームの介入状況……………364 根岸 恵（聖隷横浜病院 緩和ケアチーム）

BP4
優秀ポスター4

ポスター会場(展示ホール 特設ステージB) 6月22日(土) 15:30-16:30

座長: 柏木 雄次郎 (関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科)
今井 堅吾 (聖隷三方原病院 ホスピス科)

BP4-1	深い持続的鎮静における相応性原則(principle of proportionality)の確認を IDAS(Integrated Distress Activity Score)によるQOL評価で行った事例……………	365
	宮森 正 (川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター)	
BP4-2	アドバンス・ケア・プランニングに関する一般市民・医療者の意識調査……………	365
	及川 佑介 (砂川市立病院 地域医療連携室)	
BP4-3	高齢がん患者が望むエンド・オブ・ライフ(終末期)の生き方に関わる要因……………	365
	櫻井 智穂子 (千葉大学大学院 看護学研究科)	
BP4-4	緩和ケア病棟開設3か月後の看護師の職務満足度に影響を及ぼす要因……………	365
	鈴木 優子 (JA北海道厚生連 旭川厚生病院 緩和ケア病棟)	
BP4-5	がん疼痛症候群患者のオピオイドに関する異常薬物関連行動……………	366
	松田 陽一 (大阪大学大学院医学系研究科 麻酔集中治療医学講座)	
BP4-6	神経障害性疼痛と鑑別困難な前駆痛を呈したビスフォスフォネート製剤長期投与後非定型大腿骨骨折の一例…	366
	船木 康二郎 (富山市立富山市民病院 緩和ケア内科)	
BP4-7	がん患者が抱える心理社会的問題と支援ニーズ……………	366
	久村 和穂 (小松市民病院 地域医療連携室・がん相談支援センター、東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野、 金沢医科大学 腫瘍内科学・集学的がん治療センター)	

一般演題 (ポスター) 6月21 (金)

P1
身体的苦痛1

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座長: 土井 千春 (済生会横浜市南部病院 緩和医療科)

P1-1	転移性脳腫瘍による嘔気・嘔吐に対しオランザピンとベタメタゾンが有効であった1例……………	368
	鈴木 晶子 (独立行政法人国立病院機構函館病院 緩和ケア科 緩和ケアチーム)	
P1-2	緩和領域においてデクスメトミジン(プレセデックス [®])を使用した2例……………	368
	林 優美 (広島大学病院 緩和ケアチーム室)	
P1-3	難治性左下肢痛に対しクモ膜下腔へのモルヒネ持続投与が奏功した骨盤内脂肪肉腫症例……………	368
	上原 忠大 (国立病院機構 沖縄病院 緩和医療科)	
P1-4	難治性嘔吐に対しオランザピンを使用した経過中にせん妄、けいれんが生じた1症例……………	368
	木本 志津江 (国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 緩和ケアチーム)	
P1-5	トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合剤の内服により、軀幹、四肢の疼痛、しびれ感が緩和された Barre lieou症候群の1例……………	369
	野池 輝匡 (相澤病院 がん集学治療センター 緩和ケア科、緩和ケア支援チーム)	
P1-6	ステロイド使用中に重篤な消化管穿孔を発症した2例……………	369
	舟越 功 (北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 緩和ケア科)	
P1-7	集学的症状緩和により社会復帰を支え得た仙骨転移の一例……………	369
	土井 千春 (済生会横浜市南部病院 緩和医療科)	
P1-8	ガバベンチンと高用量イフェプロジルの併用が著効した、opioid抵抗神経障害性疼痛の2例……………	369
	久保田 元 (長崎県 対馬いづはら病院)	
P1-9	デメチルクロルテトラサイクリンが有効であった消化管間質性腫瘍に伴う 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群の1症例……………	370
	駒澤 伸泰 (兵庫県立がんセンター麻酔科・緩和ケア内科)	
P1-10	フェンタニルの副作用による疼痛が疑われた1例……………	370
	濱口 大輔 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科)	

身体的苦痛2

座 長:橋本 典夫(箕面市立病院 麻酔科)

- P2-1 持続出血をきたした進行肺癌の終末期鎮静にデクスメトミジン持続投与を行った1症例……………370
駒澤 伸泰(兵庫県立がんセンター麻酔科・緩和ケア内科)
- P2-2 悪性腸腰筋症候群に対するバルプロ酸併用後、肝機能異常なく、
高アンモニア血症を伴う意識障害を発症した1症例……………370
星野 奈月(東京女子医科大学病院緩和ケアチーム)
- P2-3 多発性骨髄腫による痛みにオキシコドン持続皮下注が奏功した透析患者の1例……………371
天野 博子(新潟県立中央病院 薬剤部)
- P2-4 終末期がん患者のせん妄に対しオランザピンの微量増量が有効であった4症例……………371
田中 祐子(兵庫県立加古川医療センター 緩和ケア内科)
- P2-5 クエチアピン内服中に低血糖を生じた2症例……………371
木村 好江(兵庫県立がんセンター 麻酔科、緩和ケア内科、看護部)
- P2-6 胃癌の腹膜播種による癌性疼痛に対して高用量のオピオイド投与下に深い持続的鎮静が困難であった一症例……………371
渡邊 文(東京大学医科学研究所附属病院 緩和医療科)
- P2-7 パクリタキセル関連末梢神経障害でラフチジンとトコフェロールニコチン酸エステルの併用が著効した1例……………372
三田 礼子(社会保険神戸中央病院 緩和ケア病棟)
- P2-8 Mohsペーストを使用した3例の止血効果に関する検討……………372
田島 つかさ(東北大学病院 緩和医療科)
- P2-9 がん終末期に合併した特異性結腸穿孔による腹痛が、ミダゾラム少量及びリドカイン持続皮下注により緩和され、
持続的な深い鎮静を回避できた一例……………372
板倉 崇泰(兵庫県立柏原病院 内科、緩和ケアチーム)
- P2-10 癌性腹膜炎による腹部不快感とそれに伴う悪心に対しリドカインが有効であった2症例……………372
鈴木 晶子(独立行政法人国立病院機構函館病院 緩和ケア科 緩和ケアチーム)

身体的苦痛3

座 長:龍澤 泰彦(石川県済生会金沢病院 外科)

- P3-1 ドロキシドパとパロキセチンの併用が有効であった咽頭癌による頸動脈洞症候群の1例……………373
佐藤 将之(川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター)
- P3-2 肺癌の終末期にネーザルハイフローシステムを使用した1症例……………373
武藤 純(広島市立 広島市民病院 緩和ケア科)
- P3-3 間歇的持続吸引が有効であった消化管閉塞の一例……………373
安井 祐司(千船病院)
- P3-4 緩和ケアチームに介入を依頼された血液透析患者の検討……………373
若山 尚士(名古屋第二赤十字病院 緩和ケアチーム)
- P3-5 ルビプロストンにより難治性便秘が解消し、腹痛コントロールおよび不眠が改善した肺癌の一例……………374
松波 馨士(日野病院 内科)
- P3-6 腸管吸収障害に対するモルヒネ持続静注の導入とPCA機能を用いたドルミカムの少量静注によって
在宅移行が可能となったがん性難治性疼痛の一例……………374
仲森 由香(大阪厚生年金病院)
- P3-7 皮膚に露出した腫瘍のケアにおけるモーズペーストの有用性……………374
岡村 直孝(長岡西病院 ビハーラ)
- P3-8 転移性浸潤性皮膚腫瘍を伴った癌患者のケア……………374
松野 多希子(JA山口厚生連 長門総合病院 緩和ケアチーム)

- P3-9 モーズ軟膏処置が浸出液のコントロールに有用であった中咽頭癌皮膚転移の一例……………375
石渡 明子 (IMSグループ 医療法人 社団 明生会 手稲ロイヤル病院)
- P3-10 ブプレノルフィン経皮吸収型製剤 (ノルスパンテープ) が著効した後腹膜線維症疑いの一例……………375
相河 明規 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)

**P4
身体的苦痛4**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 中澤 秀雄 (磐田市立総合病院 緩和医療科)

- P4-1 当院でのオキファスト使用経験……………375
進藤 吉明 (中通総合病院 消化器外科)
- P4-2 乳癌終末期でのオキシコドン注射液の使用経験……………375
金澤 真作 (東邦大学 医療センター大森病院 乳腺・内分泌外科)
- P4-3 当院におけるオキシコドンとCYP3A4、CYP2D6誘導、
阻害薬併用時の鎮痛効果・副作用の変化について……………376
白井 薫 (健和会 大手町病院 薬剤部)
- P4-4 WHO疼痛ラダー第2段階におけるオキシコドンとトラマドールの比較検討……………376
倉橋 基尚 (関西電力病院 薬剤部、緩和ケアチーム)
- P4-5 オキシコドン注射製剤の複合製剤から単剤への切り替えに伴うオピオイド・スイッチングの変化……………376
丹波 嘉一郎 (自治医科大学附属病院 緩和ケア部)
- P4-6 当院におけるオキシコドン・フェンタニルとポリコナゾール併用症例の検討……………376
鈴木 梢 (がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科)
- P4-7 オキシコドン注射剤採用後の使用状況……………377
木下 多愛 (東大阪市立総合病院 緩和ケア内科、緩和ケアチーム)
- P4-8 オキシコドン錠使用外来患者の入院要因からみた疼痛管理の後方視的検討……………377
前田 剛司 (春日井市民病院 薬剤部)
- P4-9 経口オキシコドン徐放製剤からオキシコドン注射剤持続投与への切り替えにおける換算比の検討……………377
和泉 早智子 (医療法人 東札幌病院 薬剤課)
- P4-10 がん性疼痛におけるオキシコドン塩酸塩水和物注射剤の有用性……………377
樋口 比登実 (昭和大学 医学部 緩和医療科)

**P5
ペインクリニック1**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 田口 奈津子 (千葉大学医学部附属病院 麻酔・疼痛・緩和医療科)

- P5-1 早期からの緩和ケア支援により長期の病勢コントロールが可能となった若年性胃癌骨髄腫症の1例……………378
山極 哲也 (日本パテテスト病院 ホスピス)
- P5-2 胃瘻からの高用量のパシーフ投与により在宅療養が可能となった1症例……………378
藤塚 順子 (徳島赤十字病院 がんサポートチーム)
- P5-3 疼痛による体動のため同一体位をとれず、鎮静しながらリニアック照射を施行した1症例……………378
大木 浩 (鹿児島県立大島病院 麻酔科)
- P5-4 難治性皮膚掻痒症に10%リドカインゲルが奏功した慢性移植片対宿主病(cGVHD)患者の一例……………378
柴田 茂樹 (国立病院機構長崎医療センター 緩和ケアチーム)
- P5-5 デュロキセチンにより発現した急性肝障害の1症例……………379
増澤 宗洋 (関西医科大学 麻酔科学講座)
- P5-6 肺癌の左三叉神経節転移による症候性三叉神経痛に対して、プレガバリン単独、
およびプレガバリン・モルヒネの併用が有効であった1症例……………379
松田 千栄 (国立病院機構 刀根山病院 緩和ケアチーム)

P5-7	高用量オピオイドを要する難治性がん疼痛患者のオピオイドローテーションについて ～フェンタニル製剤からオキシコドン注射剤へ切り替えた1例～	379
	澤田 正志 (財団法人総合花巻病院)	
P5-8	患者の主観的評価に基づくアセスメントで過量投与なく高容量オピオイド投与が可能となった乳がん患者	379
	吉澤 龍太 (地方独立行政法人 那覇市立病院)	
P5-9	頸胸部がん手術遠隔期にCRPS発症し治療に難渋した2例の経験	380
	友 春香 (医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院)	
P5-10	デノスマブ投与にて著名な低カルシウム血症を示した終末期がん患者の2症例	380
	山田 武志 (飯田市立病院 緩和ケアチーム)	

P6 ペインクリニック2

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 須賀 昭彦 (静岡済生会総合病院 緩和医療科)

P6-1	当科における平成24年度の内臓神経ブロック施行症例とその成績	380
	佐藤 哲観 (弘前大学医学部附属病院 麻酔科 緩和ケア診療室)	
P6-2	食道癌術後右鎖骨上窩リンパ節再発による神経障害性疼痛に対し持続硬膜外ブロックが有用であり 在宅移行できた一例	380
	尾崎 知博 (鳥取大学医学部 病態制御外科学)	
P6-3	癌性疼痛に対して神経根高周波熱凝固ブロックを施行した症例のモルヒネ減量効果、鎮痛効果の検討	381
	狩野 真由美 (東大宮総合病院 総合診療科)	
P6-4	直腸癌術後局所再発による仙骨部痛に対し、局所リドカイン持続投与が有効であった一例	381
	東 弥生 (公立松任石川中央病院 薬剤室)	
P6-5	硬膜外ブロックで鎮痛が得られ診断および治療方針が変更となった1症例	381
	三枝 里江 (群馬大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)	
P6-6	直腸癌骨盤腔内再発に対して神経破壊薬フェノールグリセリンによるサドルブロックが奏功した一例	381
	稲田 深雪 (名古屋医療センター 内科 緩和医療室)	
P6-7	肺癌患者に対する腹腔神経叢ブロックにより食欲が増進した2症例	382
	大津 裕佳 (三菱京都病院)	
P6-8	末梢神経ブロックが奏功した2症例	382
	中島 邦枝 (群馬大学 医学部附属病院 麻酔科蘇生科)	
P6-9	悪性胸膜中皮腫の胸背部痛に対して神経根ブロックを行った2例	382
	山代 亜紀子 (京都府立医科大学疼痛緩和医療学講座、京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部)	
P6-10	腹腔神経叢(内臓神経)ブロックの適応症例の選択と施行時期の検討	382
	大西 佳子 (京都府立医科大学 疼痛緩和医療学講座、京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部)	

P7 ペインクリニック3

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 笹良 剛史 (友愛会南部病院 麻酔科、ペイン、緩和ケア担当)

P7-1	腹腔神経叢ブロック目的で紹介されたがん疼痛の患者がジアゼパム中毒であった1症例	383
	谷口 彩乃 (京都府立医科大学 疼痛緩和医療学講座、京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部)	
P7-2	血液透析導入中のがん患者におけるオキシコドン血中濃度と疼痛の関連に関する検討	383
	村上 敏史 (聖隷佐倉市民病院 緩和医療科)	
P7-3	断続定電流治療器はがん性疼痛において「レスキュー」となりうるか	383
	二宮 万理恵 (市立豊中病院 緩和ケアチーム)	
P7-4	オピオイドの予期せぬ退薬症状	383
	廣田 一紀 (福岡大学 医学部 麻酔科学、福岡大学病院 腫瘍センター 緩和医療部門)	

P7-5	院外における電動式PCAポンプの使用状況と問題点について……………384 高橋 麗子 (石川県立中央病院 緩和ケアチーム、麻酔科)
P7-6	がん性疼痛におけるアセトアミノフェン投与量と安全性に関する検討……………384 松本 高広 (東邦大学 医療センター 大森病院 薬剤部)
P7-7	頭頸部癌の放射線療法による放射線性粘膜炎に対する疼痛治療……………384 安積 さやか (姫路赤十字病院麻酔科)
P7-8	オキシコドン注射剤にオピオイドローテーションを行う際の換算比に関する検討……………384 宮原 強 (佐賀県立病院好生館 薬剤部、緩和ケアチーム)
P7-9	札幌医大附属病院緩和ケアチームにおけるオピオイド使用動向と今後の課題……………385 渡邊 昭彦 (札幌医科大学附属病院 緩和ケア管理室、札幌医科大学 医学部 麻酔科学講座)
P7-10	愛媛大学附属病院におけるWHO第1段階薬の使用と腎機能の関連性に関して……………385 坪田 信三 (愛媛大学医学部附属病院緩和ケアチーム)

**P8
リンパ浮腫治療**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 吉田 智美 (滋賀県立成人病センター 看護部)

P8-1	終末期がん患者へリンパ浮腫ケアを行う意義……………385 栗秋 佐智恵 (医療法人 原三信病院 看護部)
P8-2	終末期リンパ浮腫ケアが奏功した1症例～家族看護を含めたケアを通して～……………385 山口 晴美 (医療法人財団慈恵会 大口東総合病院)
P8-3	外来における下肢浮腫患者への取り組みの効果と今後の課題……………386 中林 淳子 (日本大学医学部附属板橋病院 外科外来)
P8-4	緩和ケアチームと病棟看護チームで協働するリンパ浮腫ケアの取り組み ～症状緩和により化学療法を再開できた胸腺がん患者の症例～……………386 大市 三鈴 (伊勢赤十字病院)
P8-5	外来リンパ浮腫セルフケア指導における下肢周囲径の経時的変化の検討……………386 赤垣 みゆき (帝京大学 医学部 附属病院 緩和ケアチーム)
P8-6	病棟と外来が連携した乳がんリンパ浮腫予防の指導体制の取り組み……………386 雨宮 裕美子 (東京都立多摩総合医療センター)
P8-7	リンパ浮腫外来開設にける半年間の振り返り……………387 中島 静枝 (沢井記念乳腺クリニック)
P8-8	続発性下肢リンパ浮腫患者の5年間の動向と複合的理学療法の効果……………387 苅安 真佐美 (社会医療法人明和会 中通総合病院)
P8-9	リンパ浮腫ケア外来の現状把握と今後の課題～アンケート調査を実施して～……………387 川上 泉 (NHO 東広島医療センター 看護部)
P8-10	リンパ浮腫看護外来開設後の活動報告……………387 室田 かおる (名古屋第二赤十字病院 緩和ケアチーム、看護部)

**P9
代謝・栄養療法**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 須崎 真 (紀南病院 外科)

P9-1	緩和ケアチームが介入したがん患者における栄養状態の後方視的検討……………388 木村 律子 (金沢医科大学病院 栄養部、緩和ケアチーム)
P9-2	緩和ケアチーム介入患者の栄養状態および管理栄養士の役割……………388 梯 紋子 (聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター 緩和医療部会、栄養部)

P9-3	当院におけるソフト食導入後の検討.....388 加來 正之（独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院 栄養管理室）
P9-4	緩和ケアチームでの栄養士の関わり～特別メニュー食を通して食事の楽しさが得られた症例～.....388 小林 智子（神戸海星病院 緩和ケアチーム）
P9-5	患者にとっての食の意義～希望を支える食～.....389 伊藤 礼子（伊那中央病院 緩和ケアチーム）
P9-6	栄養剤の経口摂取のみで栄養管理を希望した頭頸部癌患者の一考察～緩和ケアチームでの関わり～.....389 菅野 真美（近畿大学医学部附属病院 緩和ケアチーム、栄養部）
P9-7	化学療法施行中の摂食障害患者に対する食事療法とNSTの介入について.....389 川野 夕花里（市立室蘭総合病院 栄養科）
P9-8	癌性消化管狭窄を合併した終末期患者における摂取回復支援食「あいと」の使用経験.....389 川端 良平（市立堺病院 外科）
P9-9	癌性腹水のコントロール目的にステロイドの腹腔内投与を施行した4例.....390 伊達 和俊（新潟労災病院）
P9-10	術後回復強化プロトコルの導入.....390 京林 裕美（北摂総合病院 栄養委員会）

P10

ポスター会場（展示ホール） 6月21日（金）13:30-14:30

緩和ケアチーム1

座 長：谷川 寛自（国立病院機構 三重中央医療センター 外科）

P10-1	大学病院の緩和ケア診療に関するアンケート調査結果報告.....390 中村 陽一（東邦大学医療センター大橋病院 緩和ケアチーム、大学病院の緩和ケアを考える会 教育部会）
P10-2	当院緩和ケアチームの5年間の軌跡～コンサルテーション内容と患者・家族の声からの分析～.....390 佐藤 美紀（一部事務組合 下北医療センター むつ総合病院 緩和ケアチーム）
P10-3	消化器センター（消化器内科・外科）と緩和ケアチームが協力して診療する膵臓癌患者53例の検討.....391 新里 誠一郎（浦添総合病院 緩和ケア）
P10-4	緩和ケアチームが関与した婦人科悪性腫瘍患者の現状.....391 生駒 美穂 （新潟大学大学院 医歯学総合研究科 緩和医療学分野、新潟大学医歯学総合病院 腫瘍センター 緩和ケアチーム）
P10-5	当院における緩和ケアチームの活動状況と今後の課題.....391 花田 喜美香（独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター）
P10-6	緩和ケアチーム発足10年目における活動評価と今後の活動体制の検討～患者アンケートを実施して～.....391 佐藤 明美（札幌医科大学附属病院 看護部）
P10-7	緩和ケアチーム発足5年間の活動と今後の課題～遺族の思いから見てきたこと～.....392 佐藤 美紀（一部事務組合 下北医療センター むつ総合病院 緩和ケアチーム）
P10-8	当院の緩和ケアチームの立ち上げと活動について.....392 倉井 栄典（陽気会 とちの木病院 薬剤部）
P10-9	オピオイド使用入院患者を対象とした、緩和ケアチーム・カルテ回診がもたらすもの ～5年間の推移からわかったこととその可能性～.....392 喜多嶋 拓士（岡山赤十字病院 緩和ケア科、緩和ケアチーム）
P10-10	コンサルテーション型緩和ケアチームの疼痛治療成績の推移（第4報）.....392 川出 義浩（名古屋第二赤十字病院 緩和ケアチーム、薬剤部）

P11
緩和ケアチーム2

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座長：阿部 泰之(旭川医科大学病院 緩和ケア診療部)

- P11-1 急性期外科病棟におけるがん終末期患者の看取り……………393
森広 雅人(長野県立須坂病院 外科)
- P11-2 緩和ケアチームによるコンサルテーション活動モデル導入の効果……………393
田村 直美(広島赤十字・原爆病院 緩和ケアチーム)
- P11-3 当院緩和ケアチームの現状と課題……………393
林 章人(高松赤十字病院 緩和ケアチーム)
- P11-4 川崎市立多摩病院における緩和ケアチーム発足から現在まで～活動評価と今後の課題～……………393
石井 将光(川崎市立多摩病院)
- P11-5 緩和ケアチームへの医師・看護師のニーズ調査……………394
中満 順子(京都第一赤十字病院 看護部)
- P11-6 一般病院での緩和ケア～スタッフの意識調査から見た緩和ケアチームの役割～……………394
岡田 美千子(亀井病院 看護部)
- P11-7 急性期病院・消化器病棟看護師の緩和ケアチームへのニーズ……………394
三田村 泉(東大和病院)
- P11-8 緩和ケアチームに対する病棟看護師のニーズと評価……………394
仁井山 由香(広島市立 広島市民病院 緩和ケアチーム)
- P11-9 乳腺・内分泌外科病棟のアンケート結果から浮かび上がった緩和ケアチームの現状と課題……………395
見延 晴美(聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター 緩和医療部会、看護部)
- P11-10 緩和ケア研修会に参加した医師における緩和ケアチームの認知度とニーズの検討……………395
岡本 恵(京都第一赤十字病院 精神科(心療内科))

P12
緩和ケアチーム3

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座長：松原 貴子(市立伊勢総合病院 麻酔科・緩和ケアチーム)

- P12-1 満足、信頼される緩和ケアチームを目指して-第2報-
～緩和ケアチームのジレンマ～……………395
岡田 雅邦(社会保険神戸中央病院 緩和ケアチーム)
- P12-2 緩和ケアチームの介入を依頼された6例～緩和ケアチームの立ち位置に関する省察～……………395
芝 祐信(東京都立多摩総合医療センター 緩和ケアチーム)
- P12-3 緩和ケアチームに関する意識調査 職種別に求めるものとは……………396
寛森 直美(国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 緩和ケアチーム)
- P12-4 当院における緩和ケア外来の活動評価と、結果を踏まえた今後の活動方針……………396
稲田 圭介(長岡中央総合病院 薬剤部)
- P12-5 当院における緩和医療に関する意識調査結果と今後の緩和ケアチームの課題
～緩和ケア病棟開設前後での比較～……………396
成松 恵(兵庫県立加古川医療センター 緩和ケアチーム)
- P12-6 「怒り」を表出する外来患者への介入……………396
小笠原 麻紀(高知大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)
- P12-7 早期から緩和ケアを推進するための取り組み～がん看護外来と緩和ケアチームの連携の視点から～……………397
村上 真由美(日本赤十字社 富山赤十字病院 看護部、緩和ケアチーム)
- P12-8 STAS-J症状版導入後の課題(PCTと病棟)……………397
大西 真理(東大阪市立総合病院 看護部)

P12-9	電子カルテ導入時における緩和ケアチーム活動のツールとしてのSTAS-J導入の試み 吉松 正憲（独立行政法人国立病院機構 大分医療センター 外科、緩和ケアチーム）	397
P12-10	より良い患者・家族支援を行うための緩和ケアチーム活動を目指して ～多職種共働のためのSTAS-J使用の評価を行って～ 濱川 文彦（特定医療法人社団高野会 高野病院 医療福祉課）	397

**P13
緩和ケアチーム4**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座長：田巻 知宏（北海道大学病院腫瘍センター 緩和ケアチーム）

P13-1	当院緩和ケアチームにおける臨床心理士の役割についての検討 小野 恵里香（松山赤十字病院）	398
P13-2	緩和ケアチームの患者アセスメントの変化の検討～精神科医師・臨床心理士の介入前後の変化～ 遠山 由香梨（春日部市立病院 緩和ケアチーム）	398
P13-3	『他施設の精神科医』と『精神科医不在の緩和ケアチーム』の連携 福井 幸代（市立伊丹病院 緩和ケアチーム）	398
P13-4	当院の緩和ケア科のニーズについての検討 ～当院緩和ケアチームの一員である精神科非常勤医師（月2回診療）の重要性について～ 高井 みゆき（独立行政法人国立病院機構函館病院 看護部 緩和ケアチーム）	398
P13-5	緩和ケアチームにおける臨床心理士の役割と今後の課題～症例を通して～ 子安 まど香（順天堂大学 医学部附属 浦安病院 緩和ケアチーム）	399
P13-6	緩和ケアチーム専従看護師を対象とした精神腫瘍学教育プログラムの開発 ～緩和ケアチーム専従看護師に求められる能力 第1報～ 上杉 英生（独立行政法人 国立がん研究センター東病院看護部）	399
P13-7	緩和医療における患者・家族への心理社会的介入 佐賀 雄大（岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座）	399
P13-8	専従スタッフのいない緩和ケアサポートチームの特徴について 塩原 正之（千葉市立海浜病院緩和ケアサポートチーム）	399
P13-9	緩和ケアチームにおける管理栄養士の活動内容と役割について 太田垣 加奈子（神戸大学医学部附属病院緩和ケアチーム）	400
P13-10	患者のアドヒアランス向上を目指したお薬説明書作成について 田村 美奈子（東大阪市立総合病院 薬剤科）	400

**P14
緩和ケアチーム5**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座長：小早川 誠（広島大学病院 緩和ケアチーム室）

P14-1	カンファレンス時間をもとにした緩和ケアチームカンファレンスの評価 寺地 紗弥香（鳥取大学医学部附属病院 がんセンター）	400
P14-2	緩和ケアチーム活動における施設を超えた支援体制の構築～合同カンファレンスの評価と今後の展望～ 村木 明美（済生会 松阪総合病院）	400
P14-3	緩和ケアチームと病棟との合同カンファレンスを行うことの意味～看護師の視点から～ 佐藤 恵子（長野赤十字病院 緩和ケアチーム）	401
P14-4	緩和ケアチーム看護師と病棟看護師らでケアの方向性を見いだした過程 ～協働のためのキーパーソンを見つけることの重要性～ 山口 里枝（神奈川県立がんセンター 緩和ケアチーム）	401
P14-5	緩和ケアチーム介入依頼カンファレンスの現状報告 矢田 和美（広島市立安佐市民病院 看護師）	401

P14-6	急性期一般病棟における緩和ケアチーム活動～データベースをもとにした活動内容評価～	401
	高橋 理智 (TMG 田園調布中央病院 緩和ケアチーム、薬剤部)	
P14-7	緩和ケアカンファレンス時の評価について～ STAS-Jを用いて～	402
	相川 りえ (大腸肛門病センター 高野病院 看護部)	
P14-8	合同カンファレンスにおける緩和ケアチームの役割	402
	白川 峰子 (広島大学病院 緩和ケアチーム室)	
P14-9	当院における緩和ケアチーム活動方法変更後の評価～カンファレンス内容の充実と効率化に向けて～	402
	清水 美穂子 (飯田市立病院)	

P15

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

緩和ケアNST(栄養サポートチーム) 1

座 長：中瀬 一 (北杜市立甲陽病院 外科)

P15-1	終末期がん患者に対する輸液治療の実際	402
	佐藤 浩二 (前橋赤十字病院)	
P15-2	当院緩和ケア病棟で行われている輸液治療が終末期患者へ及ぼす影響	403
	森 麻衣子 (多根総合病院 緩和ケア病棟)	
P15-3	がん終末期患者の輸液管理に携わる医療スタッフの意識調査	403
	大石 千佳 (名古屋第二赤十字病院 消化器内科病棟)	
P15-4	当院緩和ケア病棟での輸液治療と在院日数の実態調査	403
	松本 多恵 (和歌山県立医科大学附属病院)	
P15-5	進行再発癌患者の消化管閉塞に対するオクトレオチドの有用性	403
	上野 聡一郎 (医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 緩和ケアチーム)	
P15-6	オクトレオチド酢酸塩注射液の癌終末期における使用実態調査と薬剤安定性に関する研究	404
	和久 誓子 (東邦大学医療センター大森病院 薬剤部)	
P15-7	当院における栄養サポートチーム(NST)と緩和ケアチーム(PCT)の連携の現状について	404
	加茂 ゆかり (独立行政法人国立病院機構長崎医療センター)	

P16

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

緩和ケアNST(栄養サポートチーム) 2

座 長：伊藤 明美 (名古屋市立大学病院 栄養管理係)

P16-1	経腸栄養施行中の痛みに対しNST、緩和ケアチームが介入した一症例	404
	北岡 陸男 (香川大学医学部附属病院 栄養管理室)	
P16-2	緩和ケアnstにおける特別メニュー導入の効果と問題点	404
	市場 尚子 (社会医療法人社団 カレスサポート 時計台記念病院 栄養管理部 栄養科)	
P16-3	緩和ケアチームと栄養サポートチームの同時期介入症例の検討	405
	原口 奈菜 (聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 緩和ケアチーム)	
P16-4	高度栄養障害を伴う終末期がん患者に対して栄養療法を施行した1症例 特に、cachexiaの段階に応じた栄養管理の重要性を中心に	405
	浅井 治行 (藤田保健衛生大学病院 薬剤部)	
P16-5	低栄養の肺がん患者に対する低負荷での筋力強化と栄養管理の試み	405
	丸居 夕利佳 (金沢西病院 リハビリテーションセンター)	
P16-6	栄養管理室におけるデスカンファレンスの取り組みと効果 ～患者の思いに寄り添った食事提供の継続を目指して～	405
	蛇口 真理子 (岩手県立二戸病院 栄養管理室)	
P16-7	胃癌患者における症状緩和目的のPTEGの有用性と問題点	406
	大瀬 克広 (社会医療法人聖医会 サザン・リージョン病院 緩和ケア)	

座 長：川崎 優子（兵庫県立大学 看護学部）

- P17-1 **死期が迫る患者・家族を支えるチームアプローチ
～自宅療養を希望する患者の関わりを振り返って～**.....406
西出 環（石川県済生会金沢病院 緩和ケア病棟）
- P17-2 **回復期病棟における終末期患者の在宅復帰をスムーズにするための条件とは？**.....406
黒田 未貴（宝持会 池田病院 回復期病棟）
- P17-3 **妊娠中に胃がんが判明し、急速な経過をたどった一症例**.....406
清水 祐紀子（九州大学病院がんセンター緩和ケアチーム）
- P17-4 **緩和ケア病棟におけるリハビリテーションスタッフと看護師との連携によりQOLの向上を認めた一症例**.....407
古野 史子（市立芦屋病院 リハビリテーション科）
- P17-5 **当院における患者会開催への取り組み**.....407
星野 江梨（富士重工業健康保険組合 太田記念病院 緩和ケアサポートチーム）
- P17-6 **当院におけるがんリハビリテーションの現状と今後の課題**.....407
高木 啓至（大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部）
- P17-7 **地域の看護・介護従事者に対する緩和ケア研修会の評価**.....407
蔭山 郁子（兵庫県立 柏原病院）
- P17-8 **緩和ケアに対する理解推進を目指した院内月例公開症例検討会運営の試み**.....408
藤田 智子（日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケアチーム）
- P17-9 **緩和ケアに関する職種間の意識の違い**.....408
安川 麻友（友愛会 豊見城中央病院 緩和ケアチーム）
- P17-10 **小型シリンジポンプ（TE-361）固定器具の新規作製と使用後評価**.....408
黒川 大樹（小牧市民病院 臨床工学科）

座 長：浜野 淳（筑波大学附属病院）

- P18-1 **包括的緩和医療体制の構築に向けて～顔の見えるチーム医療～**.....408
高橋 知子（独立行政法人国立病院機構大分医療センター）
- P18-2 **限られた時間を大好きな自宅で過ごせるように
～多職種でのアプローチを行い自宅退院に至った、転移脊髄腫瘍により歩行困難をきたした症例～**.....409
上野 千沙（市立三次中央病院）
- P18-3 **今後、地域へアウトリーチして行く介護老人保健施設での看取りリハケアの実際～症例報告より～**.....409
三宅 直之（医療生協さいたま介護老人保健施設さんとめ）
- P18-4 **多職種連携のチームアプローチによって在宅への移行が可能となった一例**.....409
坂田 奈穂子（筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院 看護部）
- P18-5 **統合失調症を抱えながら看取りに向き合った息子への援助**.....409
竹久 志穂（近畿大学医学部附属病院）
- P18-6 **当院の多職種介入における緩和ケアの現状と今後の課題**.....410
細江 仁美（医療法人 八女発心会 姫野病院）
- P18-7 **患者のニーズに即した相談支援センセンターの課題**.....410
横川 史穂子（財団法人 長野市保健医療公社 長野市民病院）
- P18-8 **治療が奏功しオピオイドを中止できた一例との関わり**.....410
若城 由美子（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部）

- P18-9 脊椎転移性骨腫瘍患者に対し包括的リハビリテーションが有効であった一例……………410
片山 尚子（公立学校共済組合 中国中央病院 緩和ケアチーム、リハビリステーション科）
- P18-10 看護師の適切な疼痛ケア実践を支援する薬剤師の取り組みとその評価……………411
内田 まよこ（九州大学病院 薬剤部、九州大学病院 がんセンター）

P19
多職種協働3

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：龍 恵美（長崎大学病院 薬剤部）

- P19-1 終末期にある患者の自宅療養と角膜提供の意志決定を支援して
～家族の介護力を軸にチームダイナミクスを意識し介入した1事例～……………411
及川 知里（JA北海道網走厚生病院）
- P19-2 認知症を患う高齢がん患者を支えるための心理士とスタッフの協働に関する一考察……………411
白石 恵子（国立病院機構 九州がんセンター サイコオンコロジー科）
- P19-3 外来化学療法室における相談窓口の役割……………411
布谷 玲子（埼玉医科大学総合医療センター 緩和ケアチーム）
- P19-4 チームアプローチを行い退院することができた2症例……………412
逸見 祥子（山形県立河北病院 看護部）
- P19-5 緩和ケアチームが中心となる造血幹細胞移植時のがんリハビリテーションの試み……………412
石黒 崇（岐阜市民病院 緩和医療科、呼吸器科・腫瘍内科）
- P19-6 医師事務作業補助者が行う緩和ケアの窓口体制……………412
大田 妙子（社会医療法人 岡本病院（財団）第二岡本総合病院）
- P19-7 薬剤師による入院がん患者オピオイドレスキュー自己管理のかかわり……………412
新行内 健一（渋川総合病院 緩和ケアチーム）
- P19-8 整形外科病棟での鎮痛剤に対する看護師の不安解消における薬剤師の役割……………413
野村 光佐子（東邦大学医療センター大森病院 薬剤部）
- P19-9 一般病棟における緩和医療～緩和ケアチームのタイムリーな介入を目指して～……………413
松原 明子（NTT東日本 関東病院 産婦人科）

P20
看取り1

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：辻村 恭江（伊勢赤十字病院 緩和ケア内科）

- P20-1 A急性期病棟の看取りにおけるLCPカンファレンスの実施効果……………413
齊藤 明音（独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター 看護部）
- P20-2 LCP導入による新人看護師が感じる看取りの看護における困難さの変化……………413
廣瀬 智子（兵庫県立柏原病院 看護部）
- P20-3 ターミナルケア態度が看取り後の看護師の気持ちや体調の変化に与える影響……………414
木村 由紀子（松阪市民病院 緩和ケア病棟）
- P20-4 A病棟における死後の処置の手順改訂を試みて 手順改訂からみえたもの……………414
堀越 美保（神奈川県立循環器呼吸器病センター）
- P20-5 エンゼルケアにミスト浴を取り入れたグリーフケア……………414
宮城 智恵美（独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター）
- P20-6 エンゼルケア教育の取り組みと今後の課題～ご遺体専用エンゼルメイクセットの導入をして～……………414
高屋敷 麻理子（盛岡赤十字病院 看護部）
- P20-7 当院のエンゼルケアの外部評価……………415
服部 知春（医療法人社団シマダ嶋田病院）

P20-8	エンゼルケアに関する研修と専用の物品整備によるA総合病院看護職員の意志変化の検討	415
	大塩 瑞穂 (永寿総合病院)	
P20-9	家族参加型エンゼルケアに対する事前パンフレットの効果	415
	八日市 祐子 (小松市民病院 緩和ケア病棟)	

P21 看取り2

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：小西 達也 (武蔵野大学 教養教育部会、看護学部)

P21-1	外科系病棟の看護師が考える、がん患者・家族にとっての“よい看取り”の視点の特徴	415
	渡邊 亜紀子 (元 大阪市立大学大学院 看護学研究科)	
P21-2	がん罹患した親の死に直面した子どもへの支援に対する医療者の苦悩と対策	416
	大谷 弘行 (九州がんセンター 緩和ケアチーム)	
P21-3	家族の臨終に間に合うことの意義や負担 (予備的調査)	416
	大谷 弘行 (九州がんセンター 緩和ケアチーム)	
P21-4	急性期病院における看取りに対する看護師のジレンマ	416
	橋本 寿子 (広島市立 広島市民病院 看護部)	
P21-5	急性期病院におけるグリーフケアの知識と実践の現状	416
	橋本 寿子 (広島市立 広島市民病院 看護部)	
P21-6	ターミナルケア態度の積極性の実態調査	417
	長谷 有紗 (神戸大学医学部附属病院)	
P21-7	看取り間近での外出・外泊の意義と課題	417
	小林 友美 (特定医療法人新生病院 緩和ケア病棟)	
P21-8	在宅ホスピスを選択した家族の介護力～在宅死と病院死の比較調査～	417
	鈴木 則子 (養生会かしま病院 看護部)	
P21-9	愛媛県松山市内の在宅関連医療施設での看取りに対するアンケート結果	417
	柚木 茂 (松山市医師会在宅医療懇話会準備委員会)	

P22 家族ケア1

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：三條 真紀子 (東邦大学医学部看護学科成人看護学)

P22-1	親ががん患者である子どもへの支援～チャイルドケアプロジェクトの効果検証(1)～	418
	井上 実穂 (独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター)	
P22-2	子供への告知とその支援～がんで旅立つ親の病状をどう伝えるか～	418
	小高 ふみ ((公財)東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科)	
P22-3	がん患者の子どもへのサポートグループ：CLIMB [®] プログラムの多施設展開への取り組みと課題	418
	稲田 美和子 (自治医科大学附属病院 緩和ケア部)	
P22-4	青年・壮年期の終末期患者の家族成員それぞれのケアを検討する～2事例を振り返って～	418
	村岡 やす子 (日高病院)	
P22-5	死別に向かう患者と家族の心理社会的課題と支援～MSWの立場から～	419
	小野 はるみ (東札幌病院)	
P22-6	終末期がん患者の配偶者に対する心理的支援～夫婦間コミュニケーションに支障が見られた2症例～	419
	瀬名波 耕二 (西条愛寿会病院)	
P22-7	薬物療法に抵抗を示した家族との関わりの中で症状緩和に難渋したS状結腸癌の一例	419
	橋本 典子 (済生会松阪総合病院 緩和ケア病棟)	

座 長：鈴木 志津枝 (神戸市看護大学看護部)

- P23-1 **がん終末期の姑を在宅で看取った嫁の介護体験を振り返る～家族としての普遍性を支援する～**……………419
笹尾 佐喜美 (ひばり訪問看護ステーション)
- P23-2 **予期悲嘆の援助～家族の気持ちに寄り添う～**……………420
森 あかね (医療法人社団大浦会 メディカルケアセンターファイン 緩和ケア病棟)
- P23-3 **一般急性期病院のがん相談支援センターにおける相談者別にみた相談内容の現状と今後の課題
～患者のみ、家族のみ、患者と家族が一緒の場合の特徴～**……………420
岡崎 賀美 (社会医療法人財団大和会 東大和病院 がん相談支援センター)
- P23-4 **急性期病院消化器内科病棟における終末期患者の家族への関わり**……………420
小松 歩美 (島根県立中央病院 看護局)
- P23-5 **日中の面会が難しい家族と看護師とのコミュニケーションツール (家族メモ) 使用の試み
～家族メモ記述内容の分析～**……………420
山川 幸枝 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 緩和ケア病棟)
- P23-6 **家族の不安の段階に応じたアプローチを振り返って**……………421
田中 雄規 (藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 看護部)
- P23-7 **怒りを表出する終末期がん患者の家族への対応**……………421
並木 瑠理江 (東京歯科大学 市川総合病院)

座 長：堺 千代 (大分ゆふみ病院)

- P24-1 **複雑性悲嘆に対する終末期医療の質の影響**……………421
宮島 加耶 (慶應義塾大学 医学部 精神神経科)
- P24-2 **地域の中核病院としての緩和ケアの実際～一般病棟におけるグリーフケアの試みを通して～**……………421
菊地 浩子 (みやぎ県南中核病院 看護部)
- P24-3 **わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの現状と課題～この10年間での変化～**……………422
坂口 幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部 人間科学科)
- P24-4 **がん患者遺族への支援のあり方～遺族アンケートを通して～**……………422
鈿持 朝子 (鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム)
- P24-5 **在宅ホスピスで看取りを経験された御遺族の悲嘆について**……………422
武田 純子 (医療法人永仁会 千里ペインクリニック)
- P24-6 **緩和ケア病棟以外で家族が亡くなった遺族へのビリーブメント・ライフレビューの可能性**……………422
安藤 満代 (聖マリア学院大学 看護学部 看護学科)
- P24-7 **病院全体の家族会を開催して～グリーフケアの観点から～**……………423
奥間 かおり (国立病院機構 沖縄病院 看護部)
- P24-8 **遺族の自助グループ (あわみ会) が遺族会 (なごみ会) に参加することでの効果とその背景**……………423
佐藤 厚子 (滋賀県立成人病センター緩和ケア病棟)
- P24-9 **緩和ケア病棟における遺族サポートグループの有効性の検討 (1) ～精神症状の軽減に果たす役割と限界～**……………423
大和田 攝子 (神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 心理学科)
- P24-10 **緩和ケア病棟における遺族サポートグループの有効性の検討 (2) ～グループプロセスの質的分析～**……………423
大和田 康二 (尼崎医療生協病院 臨床心理部)

座 長：風間 郁子（筑波大学附属病院 看護部）

P25-1	医療用麻薬を使用している外来患者の抱える問題とコーピングの実態……………	424
	吉川 陽子（浜松医療センター 看護部）	
P25-2	多職種連携で行う緩和外来がオピオイド投与期間と入院期間へ与える影響……………	424
	大森 清孝（社会医療法人 岡本病院（財団）第二岡本総合病院 薬剤部）	
P25-3	婦人科緩和外来を立ち上げて～早期からの切れ目のない緩和ケア提供のために～……………	424
	溝上 友美（関西医科大学附属枚方病院 産婦人科、緩和ケアチーム）	
P25-4	医療用麻薬に対する不安要因・安心要因と今後の対策……………	424
	古川 いづみ（社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院）	
P25-5	広島大学病院における緩和ケア外来の現状と課題……………	425
	榎埜 良江（広島大学病院 看護部、緩和ケアチーム室）	
P25-6	病院に通えなくなった時 MSWとして考えること～外来患者の最期の支援～……………	425
	増田 由美（磐田市立総合病院 相談支援センター、緩和ケアチーム）	
P25-7	患者・家族を支えるための緩和ケア外来の役割……………	425
	中岡 初枝（独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター 緩和ケアチーム）	
P25-8	外来疼痛評価シートの外来におけるオピオイド導入時の有効性についての検討……………	425
	野々宮 ゆかり（砂川市立病院）	
P25-9	進行がん患者に積極的治療の中止を伝える外来場面における看護支援内容の分析……………	426
	得能 裕子（松山赤十字病院）	
P25-10	がん患者の家族の相談内容の現状～がん看護相談からの分析～……………	426
	上田 純子（独立行政法人国立病院機構大阪医療センターがんサポートチーム）	

座 長：二ノ坂 保喜（医療法人にのさかクリニック）

P26-1	在宅医療部と各科の連携で治療可能となった舌癌の1例……………	426
	濱口 大輔（医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 在宅医療部、疼痛・緩和ケア科）	
P26-2	在宅緩和ケア導入後、病院・診療所で看取りを行った症例の後方視的検討……………	426
	濱口 大輔（医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 在宅医療部、疼痛・緩和ケア科）	
P26-3	乳癌患者に対する在宅緩和ケアと看取りの経験……………	427
	沖野 孝（公立甲賀病院外科）	
P26-4	鎮痛以外の苦痛緩和にも有用であったPCAポンプ～在宅療養が継続できた2症例～……………	427
	引野 雅子（医療法人茅青会 内山クリニック）	
P26-5	医療用麻薬注射剤を使用したがん終末期患者在宅療養支援に対する薬剤師の関わり……………	427
	加藤 淳一（博愛病院 薬剤部、緩和ケアチーム）	
P26-6	外来化学療法中患者への在宅緩和ケア医療者としての支援のありかた……………	427
	中山 晋哉（バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック、日本バプテスト病院）	
P26-7	症状の進行したオピオイド持続注患者の在宅医療への移行についての検討……………	428
	赤羽 日出男（日本医科大学 武蔵小杉病院 緩和ケアチーム）	
P26-8	1年間に当診療所から訪問診療を受けた認知症を伴う癌患者7人の解析……………	428
	岩城 裕子（社会医療法人 大和会 在宅サポートセンター 村山大和診療所）	

座 長：越川 貴史 (医療法人社団杏順会 越川病院)

P27-1	鳥取県西部における在宅緩和医療の現状と地域連携の問題点の把握	428
	山崎 美沙 (NHO米子医療センター 緩和ケアチーム)	
P27-2	在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の在宅診療中止の関連要因	428
	佐藤 一樹 (東北大学大学院 医学系研究科 緩和ケア看護学)	
P27-3	住宅型有料老人ホームにおける看取り	429
	細田 修 (坂の上ファミリークリニック)	
P27-4	199床病院の麻酔科医がはじめた在宅緩和医療	429
	松下 至誠 (貝塚病院 麻酔科)	
P27-5	当院における訪問診療・訪問看護による担癌患者様に対する緩和ケアの実践	429
	鈴木 泰介 (榛原総合病院 泌尿器科)	
P27-6	緩和ケアチームの訪問診療は、自宅での生活に継続した安心感を提供できるか	429
	春川 正子 (埼玉医科大学 総合医療センター 緩和ケアチーム)	
P27-7	在宅における看取りに対する保険薬局の関わり～苦痛緩和に対して鎮静を行った症例からの検討～	430
	柴田 賢三 (株式会社ヤナセ薬局 在宅医療部)	
P27-8	在宅診療を受けた終末期がん患者の現状と在宅診療中止の実態	430
	橋本 孝太郎 (ふくしま在宅緩和ケアクリニック)	

座 長：後藤 慶次 (ひまわり在宅クリニック)

P28-1	医療処置・オピオイド使用状況と在宅療養日数および転帰との関係に関する考察	430
	一戸 由美子 (社会医療法人 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター)	
P28-2	在宅緩和ケアを受けたがん患者の年齢別特徴に関する考察	430
	一戸 由美子 (社会医療法人 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター)	
P28-3	積極的治療適応がなくなった入院患者の在宅移行の実際	431
	島田 直樹 (東京大学 医科学研究所附属病院 緩和医療科)	
P28-4	在宅療養生活を送る終末期がん患者の食事摂取に関する困難とニーズ	431
	井上 菜穂美 (聖隷クリストファー大学 看護学部)	
P28-5	希望した場で死を迎えるために要する療養期間とは？～在宅緩和ケアにおける患者家族の意志決定支援～	431
	古賀 友之 (のぞみの花クリニック)	
P28-6	終末期がん患者の家族が在宅療養を受け入れるまでの意思決定のプロセス	431
	福田 恵里 (松江市立病院 緩和ケア病棟)	
P28-7	在宅希望の本人と看取りの不安のある家族との間で～在宅死だけがゴールじゃない～	432
	佐伯 尚美 (いちえ会 洲本伊月病院 看護部 訪問看護)	
P28-8	終末期がん在宅療養者のその人らしさを支える看護実践のプロセスに関する研究	432
	富田 ゆきえ (群馬大学 医学部 保健学科)	
P28-9	遺族調査による当院の自宅看取りへの評価	432
	青木 茂 (坂の上ファミリークリニック)	

座 長：江口 恵子（社会医療法人博愛会 相良病院 看護部）

P29-1	妻を3ヶ月前にがんで亡くし、自らもがんに罹患した患者への支援その1 ～患者と子供達を取り巻く学校・施設への調整に焦点を当てて～	432
	加藤 麻樹子（青梅市立総合病院）	
P29-2	在宅と病院スタッフの連携で家族の意思決定を支援した一例	433
	北原 真理（社会医療法人生長会 ふちゅう訪問看護ステーション）	
P29-3	看取りのケアのクリニカルパスLiverpool Care Pathway日本語版在宅バージョンの開発と 実施可能性の検討	433
	菅野 雄介（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）	
P29-4	訪問看護ステーションとがん性疼痛看護認定看護師の連携の手法	433
	野口 忍（医療法人仙養会 北摂総合病院訪問看護ステーション）	
P29-5	訪問看護師が行ったがん末期療養者・家族の意思決定の支援	433
	宮崎 照子（那須赤十字訪問看護ステーション）	
P29-6	在宅緩和ケアへの試み～訪問看護師との在宅共同訪問の取り組みを開始して～	434
	西尾 美咲（県民健康プラザ鹿屋医療センター）	
P29-7	緩和ケア認定看護師のがん専門訪問看護料の活用状況と課題	434
	平野 和恵（南区医師協会 南区メディカルセンター 訪問看護ステーション）	
P29-8	地域がん診療連携拠点病院の看護師に求められる在宅緩和ケアを担う訪問看護師支援のための役割	434
	吉村 元輝（藤田保健衛生大学病院 看護部）	
P29-9	緩和ケア訪問看護師教育プログラム開発に向けた文献検討	434
	池口 佳子（聖路加看護大学）	

座 長：松本 俊子（総合病院 土浦協同病院）

P30-1	がん拠点病院とホスピス緩和ケア病院との電子カルテシステムにおける連携	435
	伊地知 盛夫（公立八女総合病院）	
P30-2	円滑な緩和ケア地域連携に向けて～宇部小野田地区における診療情報兼緩和ケア地域連携パスの作成～	435
	片山 英樹（国立病院機構 山口宇部医療センター）	
P30-3	在宅緩和医療への新たなアプローチ2～311震災経験を踏まえた多職種連携の試み～	435
	三條 篤史（三條外科胃腸科医院、天童市東村山郡医師会）	
P30-4	ホスピスにおけるかかりつけ医との24時間連携体制の検討～より良い連携システムの構築に向けて～	435
	越智 拓良（松山ベテル病院）	
P30-5	当院のエンドオブライフケアにおける地域医療連携の現状と課題	436
	馬場 玲子（筑波大学付属病院 看護部 緩和ケアセンター）	
P30-6	A地域の緩和ケア従事者が考えるネットワークづくりの現状と課題 ～A地域のネットワークづくり研修会のアンケート調査より～	436
	星野 恵美子（藤沢湘南台病院）	
P30-7	A地域の緩和ケアのネットワークづくりに関する現状の分析と今後の展望 ～A地域のネットワークづくり研修会の分析より～	436
	林 糸り子（藤沢湘南台病院）	
P30-8	在宅緩和ケア地域連携パスの有用性検証を目的としたインタビュー調査	436
	田辺 公一（富山大学附属病院 薬剤部、聖隷三方原病院 緩和支援治療科）	
P30-9	緩和ケア病棟開設に向けての取り組み～地域との連携のあり方～	437
	橋本 みさ子（高砂市民病院）	

P30-10	地域の緩和ケア活動の報告と今後の課題～研究会立ち上げから8年間の活動～	437
	高次 美香（健康保険南海病院）	

**P31
地域連携2**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：大道 雅英（長野市民病院 緩和ケア内科）

P31-1	緩和医療に対する医師アンケート調査からみえてくるもの ～PCUを持たない急性期病院で、バックアップベッドの確保は可能か～	437
	目黒 則男（市立豊中病院 緩和ケアチーム）	
P31-2	「紹介状内容と患者や家族の病状理解度との実際について」のアンケート調査の結果と考察	437
	土器屋 富美子（サザンリージョン病院 緩和ケア科）	
P31-3	多施設・多職種事例検討の体験	438
	岸野 恵（医療法人社団曙会 シムラ病院）	
P31-4	在宅医療機関合同カンファレンスシートと白板を用いた事例検討会	438
	山本 知枝子（地方独立行政岐阜県立多治見病院）	
P31-5	婦人科がん終末期医療における外部医療機関への至適転院時期に関する検討	438
	山岡 亜矢（鳥取大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）	
P31-6	「終末期の転院調整」～ホスピス転院待機中に死亡退院となった症例から～	438
	荒木 英世（市立函館病院 医療連携課）	
P31-7	緩和ケア科紹介後の生存日数の経年変化	439
	加山 寿也（尼崎医療生協病院）	
P31-8	東京ルール事案となり搬送されてきたがん患者の検討	439
	高岡 直子（大田病院 在宅医療課）	
P31-9	がん患者と非がん患者の退院調整に関する調整内容の実態と比較	439
	石井 容子（那須赤十字病院 地域医療福祉連携課）	
P31-10	“宮崎をホスピスに”プロジェクトにおける療養病床の取り組み	439
	中武 裕児（医療法人社団誠和会 藤木病院）	

**P32
地域連携3**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：福地 智巳（静岡県立静岡がんセンター）

P32-1	がん診療連携拠点病院を中心とした保険薬局との連携に向けた取り組み ～保険薬局薬剤師の緩和ケアスキルアップを目指して～	440
	中西 順子（三豊総合病院 薬剤部、緩和ケアチーム）	
P32-2	保険薬局の現状より在宅がん患者の医療用麻薬導入時に病院の医療従事者としてできること	440
	大木 純子（聖隷三方原病院）	
P32-3	在宅でのオピオイド持続注射推進のための連携システム構築	440
	原 裕美（厚生連高岡病院 総合的がん診療センター・緩和ケアチーム）	
P32-4	看護師、薬剤師、薬局による医療用麻薬導入時の情報提供内容の比較 ～各職種の強みを活かした地域連携を目指して～	440
	梅田 靖子（聖隷浜松病院）	
P32-5	保険薬局における医療用麻薬導入患者への情報提供の障壁に関する調査	441
	塩野 州平（聖隷浜松病院）	
P32-6	在宅医・薬局間における連携実態調査報告	441
	伊藤 武志（近畿大学医学部附属病院 薬剤部）	
P32-7	保険薬局でのPCAポンプの無菌的薬液調製と薬液連携の検証	441
	竹内 都子（富山県済生会高岡病院 緩和ケアチーム）	

P32-8	有明地区の緩和ケアにおける薬業連携の現状と課題～アンケート調査より～	441
	大久保 達也 (荒尾市民病院 診療技術部 薬剤科)	
P32-9	急性期病棟における在宅療養支援の現状と課題	442
	廣田 美枝 (和泉市立病院 中央館4階病棟)	
P32-10	地域がんサポートチームによる外来患者の在宅療養支援の現状	442
	久永 みゆき (愛知県がんセンター愛知病院)	

**P33
地域連携4**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 下山 理史 (愛知県がんセンター中央病院)

P33-1	岩国医療圏における施設緩和ケア・在宅緩和ケアの実態調査報告	442
	中藤 嘉人 (岩国市医療センター 医師会病院)	
P33-2	緩和ケアチームにおける地域医療連携室の役割～地域のニーズに沿った在宅緩和を進めるために～	442
	松田 亜紀 (社会医療法人岡本病院(財団)第二岡本総合病院 地域医療連携室)	
P33-3	がん患者の在宅調整から抽出された医療連携の問題点 ～在宅医療体制の偏在とがん患者支援ネットワークの構築～	443
	坂本 節子 (九州大学病院 がんセンター、看護部)	
P33-4	在宅緩和ケアの充実に向けて～訪問看護師と緩和ケア病棟看護師との連携を考える～	443
	田中 由紀江 (福山市民病院 緩和ケア病棟)	
P33-5	在宅療養に向けた病棟看護師の役割	443
	高野 苺実 (砂川市立病院 看護部 外科病棟)	
P33-6	終末期患者の希望を支える看護 授産施設職員の心の変化における一考察	443
	野口 智香子 (聖峰会 田主丸中央病院)	
P33-7	症状緩和と社会資源の導入を目的とした短期間の入院が在宅療養の継続を可能にした1例	444
	山本 知美 (山口県立総合医療センター 看護部、緩和ケアチーム)	
P33-8	地域基幹病院および訪問看護ステーションとの連携で在宅緩和ケアを実施した一症例	444
	濱口 幸人 (佐世保市立総合病院)	
P33-9	大学病院と診療所の二つの場で同一医師関わった16歳のがん患者の一例	444
	宇田 真記 (医療法人清友会 清水医院、愛媛大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)	

**P34
リハビリテーション1**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 桑田 美代子 (青梅慶友病院)

P34-1	脳梗塞を併発した終末期がん患者の希望を支えた1例	444
	京林 裕美 (医療法人仙養会 北摂総合病院)	
P34-2	終末期におけるリハビリテーションの役割～セラピストにできること～	445
	松田 森 (大阪府済生会富田林病院 リハビリテーション科)	
P34-3	在宅緩和ケアでセラピストができること	445
	西尾 玲子 (のぞみの花クリニック)	
P34-4	癌性髄膜炎に伴うせん妄患者に対する作業療法によりQOLが向上した一例	445
	小林 瑞保 (国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 リハビリテーション部)	
P34-5	最期まで自分の思うような日々を生きたい～希望を叶えるために私たちにできること～	445
	大和 泰子 (社会医療法人 共愛会 戸畑共立病院 リハビリテーション科)	
P34-6	リハビリテーション早期介入により長期的かつ効果的に関わることができた一症例	446
	多田 和博 (市立池田病院 リハビリテーション科)	

P34-7	乳がんの多発骨転移症例に対するADL動作獲得へ向けた検討……………446 亀山 啓博（順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室）
P34-8	終末期がん患者に対する排泄環境調整～チームで取り組んだ排泄ケアについて～……………446 前田 文子（宮崎江南病院 リハビリテーション部、緩和ケアチーム）
P34-9	当院緩和ケア病棟看護師の排泄介助における負担感の調査と今後の課題……………446 伊藤 泉（総合病院 岡山協立病院 リハビリテーション部）

**P35
リハビリテーション2**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：川島 正裕（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科）

P35-1	PCUに関わったリハスタッフの意識調査から今後のPCUリハへの関わり方を考察する……………447 庄司 徹彦（医療法人財団健和会 みさと健和病院）
P35-2	緩和ケア病棟における作業療法について～ QOL重視の調理活動を通して～……………447 島田 妙子（鶴田病院 緩和ケア病棟）
P35-3	当院緩和ケアセンターにおける作業療法の実施状況～開始時の状況から転帰まで～……………447 高橋 晴美（東北大学病院リハビリテーション部）
P35-4	当院において作業療法対象となった肺がん患者について ～家族構成人数と面会頻度、処方内容の後方視的調査から～……………447 池知 良昭（香川県立中央病院 リハビリテーション部 作業療法科）
P35-5	リハビリテーション科スタッフが緩和ケアチームに参加する利点……………448 國澤 洋介（埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション科、緩和ケアチーム）
P35-6	リハビリテーションを実施した終末期がん患者の自己効力感に影響を与える因子の検討……………448 大熊 桂子（要町病院 リハビリテーション科）
P35-7	大学病院における終末期がん患者の希望と作業療法の役割……………448 鈴木 亜矢（千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部）
P35-8	緩和ケアチームにおけるがん患者を対象とした作業療法介入状況調査……………448 稲邊 恵津子（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 リハビリテーション部）
P35-9	がん患者に対する小集団作業活動の導入と効果……………449 入船 友紀子（社会医療法人 共愛会 戸畑共立病院 リハビリテーション科）
P35-10	終末期患者と関わる作業療法士の実践の特徴……………449 増田 典子（吉備国際大学大学院 保健科学研究科 作業療法学専攻(通信制)、共済会 櫻井病院）

**P36
リハビリテーション3**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長：中山 紀子（手稲溪仁会病院）

P36-1	転移性脊椎腫瘍症例における離床リスク評価の検討……………449 井口 暁洋（昭和大学横浜市北部病院 リハビリテーション室）
P36-2	転移性脊椎腫瘍症例における離床リスク評価の検討(第2報) ～脊椎所見と離床の関係について～……………449 井口 暁洋（昭和大学横浜市北部病院 リハビリテーション室）
P36-3	当院における転移性脊椎腫瘍に対する放射線療法後のリハビリテーションの現状……………450 北原 エリ子（順天堂大学 医学部附属 順天堂医院 リハビリテーション室）
P36-4	荒尾市民病院(急性期病院)におけるがんリハビリテーションの現状と課題……………450 井上 研作（荒尾市民病院 リハビリテーション技術科）
P36-5	当院外来におけるがん患者に対するリハビリテーションの実態とその役割……………450 伊藤 美希（医療法人社団曙会 シムラ病院 診療技術部 リハビリテーション科）

P36-6	当院緩和ケアチームにおけるリハビリテーションの取り組み	450
	木村 祥子 (西脇市立西脇病院 緩和ケアチーム)	
P36-7	当院における緩和ケアリハビリテーションの現状と課題	451
	山田 裕次郎 (兵庫県立加古川医療センター リハビリテーション科)	
P36-8	緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの現状と今後の課題～代表者(医師)への全国調査結果より～	451
	高島 千敬 (大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部)	
P36-9	緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの現状と今後の課題 ～代表者(リハビリテーション職種)への全国調査結果より～	451
	島崎 寛将 (ベルランド総合病院 作業療法室)	
P36-10	緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの現状と今後の課題～病棟代表看護師への全国調査結果より～	451
	田尻 寿子 (静岡県立 静岡がんセンター リハビリテーション科)	

**P37
教育1**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 茶園 美香 (慶應義塾大学看護医療学部)

P37-1	患者の一日も早い疼痛緩和にむけたリンクネースに対する教育活動	452
	岩本 真由子 (社会医療法人 愛仁会 千船病院)	
P37-2	緩和ケア認定看護師によるリンクネースへの支援の有用性についての検討～アンケート調査より～	452
	安西 裕子 (公立昭和病院 看護部)	
P37-3	緩和ケアセンターにおける看護師教育～病棟学習会でELNEC-Jコアカリキュラムを実施して～	452
	松尾 光代 (久留米大学病院 緩和ケアセンター)	
P37-4	国立がん研究センターがん対策情報センターが主催した看護師を対象とする研修受講者の変化 ～管理者評価結果～	452
	中澤 葉宇子 (独) 国立がん研究センター がん対策情報センター)	
P37-5	がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム研修会の評価～研修後追跡調査結果～	453
	中澤 葉宇子 (独) 国立がん研究センター がん対策情報センター)	
P37-6	がん診療連携拠点病院看護管理者のがん看護研修・人材育成に関する困難	453
	中澤 葉宇子 (独) 国立がん研究センター がん対策情報センター)	
P37-7	がん診療連携拠点病院看護管理者のがん看護研修・人材育成に関するニーズ	453
	細矢 美紀 (独) 国立がん研究センター がん対策情報センター)	
P37-8	院内のがん関連認定看護師の認知と活用の現状	453
	高仲 雅子 (日本医科大学 多摩永山病院 看護部)	
P37-9	Aがん専門病院の緩和ケアに関わる認定看護師の今後の課題 ～緩和ケアに関する知識、実践、困難感の実態調査～	454
	山崎 祥子 (愛知県がんセンター中央病院 看護部)	
P37-10	緩和ケア認定看護師フォローアップ研修の実施報告 第2報	454
	中川 えみ (東海大学 医学部付属 大磯病院)	

**P38
教育2**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 清水 佐智子 (鹿児島大学医学部 保健学科)

P38-1	療養型病棟看護師のがん看護における困難感の要因	454
	中田 美都里 (社会医療法人 康和会 札幌しらかば台病院)	
P38-2	血液内科病棟において緩和ケアを行なううえでの看護師の困難感について	454
	三浦 純子 (市立伊丹病院 緩和ケアチーム)	
P38-3	急性期病院の看護師が患者・家族に「緩和ケア」を説明するうえでの課題	455
	山口 聖子 (順天堂大学医学部附属浦安病院 看護部、がん治療センター)	

P38-4	緩和ケアチーム1日研修による院内リンクナースの知識・役割意識の変化……………455 松尾 久美 (長崎大学病院 緩和ケアチーム)
P38-5	新設緩和ケア病棟実働2ヶ月後の看護師実態調査 ～「緩和ケアに関する医療者の困難感の尺度」を用いた調査結果から得た内容～……………455 中山 聖子 (医療法人社団 鶴友会 鶴田病院 緩和ケア病棟)
P38-6	ケアの質の向上に向けた参加型学習会取り組みの効果～ロールプレイを取り入れて～……………455 君塚 典子 (公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 緩和ケア病棟)
P38-7	がん看護経験の少ない看護師のコミュニケーションスキル向上にむけた教育的介入の検討 ～ロールプレイとカンファレンスに焦点を当てて～……………456 興津 美和 (兵庫県立がんセンター 看護部)
P38-8	エンゼルケアの改善を試みて～看護師の年代別特徴について～……………456 奥田 裕紀子 (第二岡本総合病院 看護部)
P38-9	デスクカンファレンスを通して得られた看護の変化……………456 有江 真紀 (天草地域医療センター)
P38-10	地域がん診療拠点病院における一般病棟看護師の逝去時カンファレンスの認識と今後の学習会への課題……………456 丹澤 千晶 (市立甲府病院)

**P39
教育3**

ポスター会場(展示ホール) 6月21日(金) 13:30-14:30

座 長: 齋藤 義之 (新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア科)

P39-1	PEACEフォローアップ研修会に参加した看護師の変化～アンケート調査結果から～……………457 梶山 ナミ恵 (NHO東広島医療センター 看護部)
P39-2	4年間のがん看護学習会の取り組みと今後の課題……………457 中村 恵 (公立豊岡病院組合立豊岡病院 看護部)
P39-3	ロールプレイを用いたがん看護研修会の一報告と今後の課題……………457 棚原 陽子 (琉球大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)
P39-4	地域がん診療連携拠点病院が主催したELNEC-J研修会の評価と今後の課題……………457 後藤 郁子 (太田総合病院附属 太田西ノ内病院)
P39-5	がん医療に携わる医療者に対する緩和ケア病棟研修の教育的役割～第2報～……………458 笹田 侑子 (大津市民病院)
P39-6	在宅緩和ケアの普及を図る取り組み～在宅スタッフのための緩和ケア研修会を開催して～……………458 郡 利江 (徳島県立中央病院、徳島緩和ケア研究会)
P39-7	緩和ケア研修会におけるワールドカフェを用いたグループワークの試み……………458 岡山 幸子 (宝塚市立病院 緩和ケアチーム)
P39-8	がん疼痛治療に対する緩和ケア研修会の効用……………458 小林 孝一郎 (富山赤十字病院 呼吸器外科、緩和ケアチーム)
P39-9	当院における緩和ケア研修会の現状と問題点……………459 土屋 恭子 (聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科)
P39-10	当大学病院における多職種を対象とした緩和ケア研修会の取り組みと今後の課題……………459 長えき 美奈子 (大阪医科大学附属病院 看護部、緩和ケアチーム)

一般演題 (ポスター) 6月22日 (土)

**P40
身体的苦痛5**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 吉澤 明孝 (医療法人社団 愛語会 要町病院)

P40-1	がん疼痛に対するデュロキセチンの有用性……………462 斉藤 英俊 (社会福祉法人 恩賜財団 水戸済生会総合病院 緩和ケア診療科)
-------	--

P40-2	当院癌悪液質患者の食欲不振・倦怠感に対するステロイドの効果と予後の検討	462
	垣田 成庸 (市立貝塚病院 消化器内科)	
P40-3	一般病棟における終末期がん患者の睡眠障害に対するミダゾラムの使用	462
	奥野 友理 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院 薬剤部)	
P40-4	肺癌患者における鎮咳を目的としたモルヒネ徐放性剤の使用経験	462
	河岸 由紀男 (黒部市民病院 内科)	
P40-5	終末期がん患者における難治性吃逆に対してリドカイン持続皮下投与が有効であった症例	463
	金石 圭祐 (東京厚生年金病院 緩和ケア内科)	
P40-6	進行癌の難治性嘔気・嘔吐に対するolanzapineの有効性の検討	463
	飯田 邦夫 (協立総合病院 緩和ケア診療部)	
P40-7	高齢がん患者における全身倦怠感の改善が期待できる看護介入方法の検討	463
	伊藤 豊美 (独立行政法人 国立長寿医療研究センター 中四階病棟)	
P40-8	骨盤内腫瘍による痛みに対するプレガバリンとデュロキセチンの併用効果	463
	松元 満智子 (山口大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科)	
P40-9	がん疼痛に対するケタラールの使用経験	464
	合屋 将 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 緩和ケア科)	
P40-10	苦痛緩和に対する抗精神病薬やモルヒネとミダゾラム併用の提案	464
	森田 幸代 (滋賀医科大学 腫瘍センター)	

**P41
身体的苦痛6**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：後明 郁男 (北見赤十字病院 緩和ケア内科)

P41-1	終末期の血液検査所見が倦怠感の治療方針に与える影響についての検討	464
	松尾 直樹 (医療法人 惇慧会 外旭川病院)	
P41-2	当院におけるトラマドール塩酸塩の使用実態調査	464
	三宅 加奈子 (公立玉名中央病院 緩和ケア委員会)	
P41-3	肺癌患者のオピオイド使用量についての検討	465
	上島 聖秀 (富山労災病院 緩和ケアチーム)	
P41-4	1日1回型フェンタニル貼付製剤にオピオイドローテーションしたがん疼痛症例の分析	465
	椿 浩美 (済生会 川口総合病院)	
P41-5	がん疼痛患者におけるプレガバリンの腎機能を考慮した投与量と服薬中止との関連について	465
	田中 景子 (国立病院機構 大阪医療センター 薬剤科、がんサポートチーム)	
P41-6	レスキュードーズ1回分の患者自己管理システム運用開始1年間の評価と今後の課題	465
	内田 新 (地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎市立市民病院 看護部、緩和ケアチーム)	
P41-7	オキシコドン塩酸塩水和物注射液への移行における効果と課題	466
	佐藤 嘉孝 (公立学校共済組合 東海中央病院 緩和ケアチーム)	
P41-8	がん終末期患者に対するフェノバルビタールを用いたconscious sedationに関する後方視的検討	466
	下川 福子 (関西労災病院 緩和ケアチーム、薬剤部)	
P41-9	在宅緩和ケア導入時の疼痛評価とその治療	466
	石巻 静代 (ケアタウン小平クリニック)	
P41-10	簡便な操作で痛みレベルを記録しグラフ化する「タブレットPC版ペインメモリー」の試み	466
	平澤 宏卓 (名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程)	

身体的苦痛7

座 長: 神谷 浩平 (山形県立中央病院 緩和医療科)

- P42-1 認知症を伴うがん患者に対して看護師が行う疼痛マネジメントの判断とその根拠……………467
兼平 奈美 (北海道医療大学 大学院 看護福祉学研究所)
- P42-2 緩和ケア病棟における硬膜外埋め込み型ポート留置の検討～患者のQOLを向上させるか?～……………467
岩下 智之 (松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科)
- P42-3 がん終末期患者の医療用麻薬に対する認識・思い……………467
中嶋 由香利 (高岡市民病院)
- P42-4 オピオイド維持量に対する患者因子の影響……………467
保田 和哉 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)
- P42-5 漢方薬はキャンサーサバイバーシップにおいてひとつの選択肢となりえる……………468
糸賀 知子 (越谷市立病院)
- P42-6 がん性疼痛緩和目的の持続皮下注射のマニュアルと患者用パンフレットの作成と安全な実施……………468
羽鳥 裕美子 (国立病院機構 高崎総合医療センター)
- P42-7 過去5年間の処方量調査と医師へのアンケート調査にもとづいた、当院でのオピオイド使用の特徴……………468
植松 夏子 (JA愛知厚生連 豊田厚生病院 薬剤科)
- P42-8 医療用麻薬に抵抗を示す理由～円滑な疼痛治療を目指して～……………468
村田 京子 (市立函館病院)
- P42-9 難治性胸水に対してステロイドが著効した一例……………469
前田 晃宏 (総合病院 明和病院)
- P42-10 消化管通過障害に伴う暖気がすっきり出ない不快感に対してメトクロプラミドが著効した症例……………469
狩野 真由美 (東大宮総合病院 総合診療科)

精神的苦痛

座 長: 田島 つかさ (東北大学医学部 緩和医療科)

- P43-1 第1報 緩和ケアチームと主治医の精神心理的苦痛の評価の違い……………469
小笠原 利枝 (横浜市立みなと赤十字病院)
- P43-2 第2報 緩和ケアチームの存在意義～精神心理的苦痛の評価に焦点をあてて～……………469
小笠原 利枝 (横浜市立みなと赤十字病院)
- P43-3 乳がん末期にせん妄を繰り返した症例……………470
熊谷 晴子 (市立 枚方市民病院)
- P43-4 否認を呈した患者の緩和ケアに関する検討……………470
廣嶋 真由美 (医療法人 清田病院 緩和ケア病棟)
- P43-5 当科における呼吸器疾患終末期のせん妄への薬剤使用の検討……………470
大沼 法友 (市立千歳市民病院)
- P43-6 せん妄治療中にアカシジアが出現し治療に難渋したが在宅療養に至った一例……………470
堤 淳 (大阪医科大学附属病院 緩和ケアチーム、精神科)
- P43-7 がん治療が奏功した事で抑うつ状態となりESAS-Rによる評価をしながら治療した2症例……………471
仁熊 敬枝 (姫路赤十字病院 麻酔科)
- P43-8 不安が強く来院できなかった再発乳がん患者と家族へのかかわり……………471
木村 千暁 (湘南藤沢徳洲会病院 外来化学療法室)
- P43-9 緩和ケア病棟および緩和ケアチーム介入患者におけるせん妄発症例の検討……………471
高橋 尚子 (日本赤十字社医療センター 緩和ケア)

P43-10	がん患者のせん妄に対する、ハロペリドール使用によるアカシジアの発生割合とビペリデンの有効性……………471
	李 振雨 (安城更生病院 緩和ケア内科)

**P44
社会的・スピリチュアルな苦痛**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 所 昭宏 (近畿中央胸部疾患センター 心療内科/緩和ケア内科/支持・緩和療法チーム)

P44-1	若い乳がん患者の経済的苦痛(社会的苦痛)の緩和に取り組んだ症例……………472
	賢見 卓也 (医療法人社団 パリアン 訪問看護パリアン、がんと暮らしを考える会)
P44-2	緩和ケアチームにおけるソーシャルワーカーの役割……………472
	桑島 規夫 (聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター 緩和医療部会、メディカルサポートセンター)
P44-3	村田理論に基づいたスピリチュアルペインの探求～患者の存在を支えたもの～……………472
	池田 清香 (日野病院組合 日野病院)
P44-4	治療中止となり絶望に陥った進行卵巣癌患者に対するスピリチュアルケア……………472
	守谷 祐希子 (松山赤十字病院)
P44-5	早期乳がん患者のスピリチュアルペインに介入し、セルフケアに繋がった1例……………473
	本多 昌子 (渋川総合病院 緩和ケアチーム)
P44-6	若年の舌がん患者のスピリチュアルペインに対するチームアプローチで在宅療養ができた一事例……………473
	人見 由希子 (石川県立中央病院 緩和ケアチーム)
P44-7	希死念慮がある患者への関わりを通して～看護師が行うディグニティセラピーの考察～……………473
	馬淵 美恵 (林山クリニック 希望の家)
P44-8	子宮頸がんの進行による歩行困難でスピリチュアルペインを表出した2症例 ～SP-CSSを用いたりハビリテーションスタッフとのチームアプローチ～……………473
	吉田 奈美江 (社会医療法人 社団 カレスサッポロ 時計台記念病院 看護部)
P44-9	入院中のがん患者に対するスピリチュアルケアとしての支持的カウンセリングの有効性の検討……………474
	館野 一宏 (独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター 緩和ケアチーム)

**P45
全人的苦痛**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 鈴木 正寛 (NTT東日本関東病院 緩和ケア科)

P45-1	緩和ケアチーム依頼患者における主治医と緩和ケアチームのアセスメントの差異の検討……………474
	遠山 由香梨 (春日部市立病院 緩和ケアチーム)
P45-2	疼痛緩和のために時期に応じて複数種の神経ブロックを行った婦人科悪性腫瘍の一症例……………474
	生駒 美穂 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 緩和医療学分野、腫瘍センター 緩和ケアチーム)
P45-3	緩和ケアチーム介入により看取りまで全人的苦痛に対応できた高齢者進行上顎歯肉癌の1例……………474
	吉田 明弘 (尾道市立市民病院 歯科口腔外科、緩和ケアチーム)
P45-4	心をこめた全人的ケアによりその人らしさを取り戻した乳がん患者の一例……………475
	長末 麻衣子 (藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 看護部)
P45-5	療養病床における青年期癌患者の終末期の関わり……………475
	松原 恵一 (医療法人社団誠和会 藤木病院)
P45-6	がん集学治療センターにおける全人的ケアのための取り組み ～継続看護を可能にするための申し送りシステムを導入して～……………475
	宮崎 万友子 (飯塚病院 看護部)
P45-7	担がん患者の浮動感に対する心身医学的治療の有用性……………475
	蓮尾 英明 (赤磐医師会病院 内科、関西医科大学 心療内科講座)
P45-8	高用量のオピオイドを使用しても鎮痛効果が明らかでない患者の特徴について……………476
	吉川 妙子 (長岡赤十字病院 緩和ケアサポートチーム)

P45-9	難治性疼痛と診断され薬物療法を受けていた腫瘍患者に対し、 全人的苦痛の側面からの介入により鎮痛剤を全て中止できた一例……………476 吉澤 真知子（長岡赤十字病院 緩和ケアサポートチーム）
P45-10	愛媛県内の相談支援センターにおける課題……………476 菊内 由貴（独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター）

P46	ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土） 14:30-15:30
化学療法1	

座 長：吉岡 亮（三菱京都病院 腫瘍内科・緩和ケア内科）

P46-1	当院におけるXELOX療法の副作用対策～血管痛対策への試み……………476 星野 江梨（富士重工業健康保険組合 太田記念病院 看護部）
P46-2	抗EGFR抗体薬による頭部び瘡様皮疹ケアの検討……………477 町田 由枝（社会医療法人財団大和会 東大和病院 看護部）
P46-3	治療に対する患者の思いが及ぼす対処行動の違い……………477 荒堀 広美（関西医科大学附属滝井病院）
P46-4	嘔吐を苦痛と表現しない患者の予期性心因性嘔吐の要因……………477 小川 佐知子（山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 看護部、緩和ケアチーム）
P46-5	BEP療法におけるパロノセトロン [®] の制吐効果の検討……………477 川口 紘史（札幌医科大学附属病院 薬剤部）
P46-6	エリブリン投与により口内乾燥が出現し、投薬により改善した2例……………478 滝田 敬子（鳥取市立病院 薬剤部）
P46-7	外来化学療法における口腔粘膜障害に対するクライオセラピーによる症状緩和対策の検討……………478 奥野 映子（島根県立中央病院 外来）
P46-8	外来化学療法室を利用する患者のオピオイド使用状況とケアの現状……………478 大野木 由美子（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 看護部）
P46-9	外来化学療法室看護師を対象とした聞き取り調査から緩和ケアチーム介入方法の検討……………478 佐藤 友香（公立岩瀬病院 緩和ケアチーム、看護部）

P47	ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土） 14:30-15:30
化学療法2	

座 長：太田 信吉（愛知国際病院 外科）

P47-1	既存の薬剤である経口エトポシドにより劇的なQOLの改善を認めた小細胞肺癌の1症例……………479 花谷 崇（市立長浜病院呼吸器内科）
P47-2	化学療法期間中、モーズ軟膏が局所症状緩和に有効であった局所進行性乳癌の1例……………479 柳 政行（済生会川内病院外科）
P47-3	外来化学療法中における消化器がん患者の栄養摂取アセスメント項目の検討……………479 江藤 美和子（社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 看護部）
P47-4	5-FU系製剤の化学療法を受ける大腸がん患者の味覚変化と生活への影響……………479 中 万里子（関西医科大学附属滝井病院）
P47-5	再発・進行ミューラー管癌患者に対する治療の緩和医療的側面……………480 西脇 邦彦（旭川医科大学 医学部 産科婦人科学講座）
P47-6	最終化学療法終了後の療養期間のがん種別検討……………480 宮本 信吾（日本赤十字社医療センター 化学療法科）
P47-7	腎機能低下の有無による多発性骨髄腫患者に対する腎機能低下の有無による多発性骨髄腫患者に対する ゾレドロン酸投与の生命予後への影響……………480 森尾 佳代子（大阪大学大学院 薬学研究科 医療薬学専攻、大阪府済生会中津病院 薬剤部）

P47-8	外来化学療法に移行する進行がん患者の意思決定に必要な医療者の支援について ～質問紙調査票の自由記載から見たもの～	480
	北得 美佐子 (関西医療大学 保健看護学部)	
P47-9	外来化学療法室に通院する進行がん患者の社会・経済的問題に関する一考察	481
	福井 亜希子 (大阪府立急性期・総合医療センター)	

**P48
放射線療法**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座長: 田墨 恵子 (大阪大学医学部附属病院 看護部)

P48-1	手術不能の下部消化管閉塞で経口摂取困難となったが非侵襲的に閉塞を解除でき食べる喜びが蘇った一例	481
	永倉 久泰 (KKR札幌医療センター 放射線科)	
P48-2	Best Supportive Care (BSC) と放射線治療	481
	片山 絵美子 (奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座)	
P48-3	骨転移症例における緩和放射線療法の検討	481
	川端 邦裕 (公立学校共済組合 東海中央病院 緩和ケアチーム)	
P48-4	当院における緩和ケアチームを介した緩和照射の現状	482
	山田 英人 (神奈川県立がんセンター 緩和ケア内科・緩和ケアチーム)	
P48-5	頭頸部癌放射線療法による口腔粘膜炎の疼痛管理の現状と課題	482
	三宅 麻文 ((公財) 田附興風会 北野病院 薬剤部)	
P48-6	化学放射線療法を行う頭頸部がん患者の皮膚炎悪化要因の検討	482
	藤田 恵 (愛知県がんセンター中央病院 看護部)	
P48-7	放射線治療の早期効果と副作用の検討	482
	松永 佳子 (米子医療センター)	
P48-8	食道癌骨転移の疼痛に対してストロンチウム89の反復投与が有効であった一例	483
	前田 修 (名古屋大学 消化器疾患先端研究寄附講座)	
P48-9	局所進行臓器癌で粒子線治療を受けた患者の思い	483
	戎谷 明日香 (兵庫県立粒子線医療センター)	
P48-10	放射線腫瘍科の患者に対する緩和ケアチームの役割は?～放射線腫瘍科からの介入依頼症例の考察～	483
	長岡 広香 (筑波大学附属病院 緩和ケアセンター)	

**P49
手術療法**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座長: 山田 岳史 (日本医科大学附属病院 消化器外科)

P49-1	乳癌術後局所再発に対し、再発巣切除を行いQOL改善及び長期生存を得た2例	483
	高杉 知明 (日本大学 医学部 消化器外科、駿河台日本大学病院 外科)	
P49-2	緩和手術により在宅医療が可能であった輸入脚症候群を来した末期癌の2例	484
	町支 秀樹 (桑名東医療センター 外科)	
P49-3	一側性反回神経麻痺による嘔声に対して甲状軟骨形成術Ⅰ型を施行した末期肺癌の3例	484
	辻村 恭江 (伊勢赤十字病院 緩和ケア内科)	
P49-4	肺腺癌にて化学療法施行中、オピオイドで疼痛制御困難な頭痛に対し、 VPシャント造設にて症状緩和がはかれた癌性髄膜炎の1例	484
	黒田 敏久 (東邦大学医療センター佐倉病院 内科)	
P49-5	悪性大腸狭窄に対して大腸ステントを挿入した3症例	484
	竹内 真実子 (安城更生病院 消化器内科)	
P49-6	緩和的排液・減圧用PEG(経皮内視鏡的胃瘻)を造設した症例の検討	485
	渡部 訓子 (JA秋田厚生連平鹿総合病院 緩和ケアチーム)	

P49-7	切除不能膀胱癌に対する外科手術の有用性の検討	485
	前原 伸一郎 (国立病院機構 九州がんセンター)	

**P50
CART・口腔ケア**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 原 一平 (高知医療センター 緩和ケア内科)

P50-1	消化器癌の癌性腹水に対するCARTの効果と安全性の検討～施行時期別の比較～	485
	氏原 正樹 (名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器内科学)	
P50-2	難治性腹水に対するCART (腹水濾過濃縮再静注法) の症状緩和効果の検討	485
	蔵田 由佳 (医療法人社団愛語会 要町病院)	
P50-3	がん末期の難治性腹水患者の在宅療養を支えるために～ KM-CARTの実践～	486
	小栗 啓義 (高知厚生病院 緩和ケア科)	
P50-4	腹水難民を生み出すな! ～ KM-CARTによる癌性腹水に対する積極的症狀緩和とオーダーメイド癌治療への活用～	486
	松崎 圭祐 (要町病院 腹水治療センター)	
P50-5	肝疾患による難治性腹水に対する緩和治療としての 腹腔静脈シャント (Denver peritoneovenous shunt) の検討	486
	飯田 洋也 (明和病院 外科)	
P50-6	緩和ケア病棟における口腔ケアチーム活動の実際	486
	佐々木 恵 (盛岡赤十字病院NST)	
P50-7	化学療法で入院したがん患者への口腔ケアの取り組みと周術期管理システム	487
	元信 美和 (独立行政法人 労働者健康福祉機構 岡山労災病院)	
P50-8	口腔ケアにローズウッドオイルを取り入れた効果と課題	487
	阿部 仁美 (鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム)	
P50-9	歯科衛生士と看護師が効果的に協働するための研修カリキュラムの提案	487
	吉田 志麻 (東北大学大学院 歯学研究科 口腔保健発育学講座 予防歯科学分野)	
P50-10	緩和病棟における口腔ケアのスタンダードシート作成と運用に向けた取り組み	487
	笠谷 美保 (千葉県がんセンター)	

**P51
補完代替療法**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 廣橋 猛 (三井記念病院 緩和ケア科)

P51-1	癌性腹膜炎に伴う、腸蠕動時痛に対する鍼灸治療の一症例	488
	篠原 昭二 (明治国際医療大学 鍼灸学部鍼灸学科 伝統鍼灸学教室)	
P51-2	A病棟の緩和ケア病棟におけるアロマセラピーの効果	488
	山中 洋美 (地方独立行政法人岐阜県立多治見病院)	
P51-3	当院における漢方薬の使用経験	488
	大湾 勤子 (国立病院機構 沖縄病院 緩和医療科)	
P51-4	がんの痛みに桂枝加朮附湯が有効であった肺がんの2症例	488
	神田 佳典 (和歌山県立医科大学麻酔科学教室)	
P51-5	当院緩和ケア病棟入院患者に対する補完代替医療についての実態調査	489
	徳岡 泰紀 (国保中央病院 緩和ケア科)	
P51-6	緩和ケアチーム看護師がリフレクソロジーを実施する意義について	489
	宮内 貴子 (山口大学 医学部 附属病院)	
P51-7	放射線療法における口内炎に対して、多職種共同による鍼灸治療の一症例	489
	横西 望 (明治国際医療大学 鍼灸学部鍼灸学科 伝統鍼灸学教室)	

P51-8	呉茱萸湯が奏功した小脳メラノーマの吃逆の1症例……………489 齊藤 美也子 (旭川医科大学麻酔科蘇生科)
P51-9	がん患者の痛みに対するアロマセラピーの効果……………490 上垣 美江 (がん・感染症センター都立駒込病院 看護部)

**P52
癒し**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 番匠 千佳子 (聖隷浜松病院 看護部)

P52-1	がん患者支援イベント リレーフォーライフが医療者へ及ぼす影響とその効果……………490 前原 伸一郎 (国立病院機構 九州がんセンター)
P52-2	終末期のがん患者・家族に看護が与える影響について ~苛立ちや拒否的な態度を示す症例を対象に~……………490 立野 友絵 (東京女子医科大学東医療センター 看護部、緩和ケアチーム)
P52-3	デスカンファレンスが看護師の認知・行動・気分及ぼす影響を考える ~自己効力感と自信の変化を測定して得られた結果から~……………490 森 佳子 (砂川市立病院)
P52-4	デスカンファレンスを開催する緩和ケアリンクナースの困難感……………491 山下 めぐみ (独立行政法人 国立病院機構 三重中央医療センター 看護部)
P52-5	職場ストレス緩和への動物の介在効果……………491 吉川 朝子 (名古屋掖済会病院 緩和ケア病棟)
P52-6	緩和ケア病棟の患者との関わりの中で看護師の抱く感情と対処行動 ~対応困難な状況に遭遇した時の語りから~……………491 吉田 明恵 (盛岡赤十字病院緩和ケア病棟)
P52-7	終末期における患者・家族へのアプローチ~患者の希望を実現するために~……………491 西岡 由香 (広島市立安佐市民病院 看護部)
P52-8	緩和ケアにおける香りの有効性を実感できた一例……………492 丸山 美香 (新潟県立がんセンター新潟病院 看護部)
P52-9	がん患者におけるグループ療法への参加動機の構成要素……………492 松井 智子 (大阪大学大学院 人間科学研究科)
P52-10	「もう一度温泉に入りたい」という思いを尊重して取り組んだ入浴介助の事例 ~患者・家族の安楽と苦痛緩和を求めて~……………492 長田 恵美 (鶴巻温泉病院)

**P53
告知**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 早川 満利子 (日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院)

P53-1	告知後急展開で在宅にて看取ることが出来た1症例……………492 西尾 美帆 (医療法人いちえ会洲本 伊月病院 緩和ケア外科)
P53-2	パラコートを誤飲したが無症状であった患者に予告告知を行った1症例……………493 大宮司 明子 (鹿児島県立大島病院 麻酔科)
P53-3	一般病院における初診呼吸器外科患者の告知・説明に対する意思の特徴……………493 福崎 伊豆美 (JA鹿児島厚生連病院 緩和ケアチーム)
P53-4	呼吸器専門病院におけるがん患者カウンセリングの現状と今後の課題……………493 神山 智秋 (NHO近畿中央胸部疾患センター 看護部、支持・緩和療法チーム)
P53-5	病名告知後のがん相談内容と支援の実態……………493 川瀬 佐登美 (地方独立行政法人 三重県立総合医療センター)
P53-6	告知における問題点~患者、家族、そして主治医~……………494 大西 玲子 (公益財団法人 昭和会 今給黎総合病院 緩和医療課)

P53-7	病状説明の場面における看護師の役割と今後の課題～医師の看護師に対する期待と満足～	494
	竹田 美和子 (公立置賜総合病院 緩和ケアチーム)	

**P54
コミュニケーション**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 保坂 隆 (聖路加国際病院 精神腫瘍科)

P54-1	ALS担癌患者の疼痛コントロールに難渋した一例	494
	形部 文寛 (独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター)	
P54-2	がん患者に対する認知行動療法を取り入れた看護介入を考える ～脳幹部腫瘍患者への介入を通して～	494
	乾 貴絵 (兵庫医科大学病院 ペインクリニック部)	
P54-3	術前にせん妄を発症した重複がん患者、家族への意思決定支援	495
	井上 智恵 (広島市立広島市民病院 看護部)	
P54-4	終末期がん患者の生きる力を支えるケア	495
	藤森 敦子 (厚生連滑川病院 看護部)	
P54-5	家族関係に問題のある終末期患者への関わりについての事例検討	495
	白津 知子 (済生会福岡総合病院 8階病棟)	
P54-6	ターミナル期に直面した本人・家族への看護師の関わり～家族との関係性・母親の役割を支える～	495
	比嘉 亜紀 (社会医療法人 敬愛会 中頭病院 内科・血液混合病棟)	
P54-7	当院における緩和ケアチームの活動と評価～医師・看護師の緩和ケア困難感とチームへの要望～	496
	則竹 宏美 (愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 緩和ケアチーム)	
P54-8	抗がん治療を積極的には勧められない状況について話し合う際の 患者-医療者間のコミュニケーションに関する研究～予告告知の実際と意向の報告(第1報)～	496
	梅澤 志乃 (国立がん研究センター東病院 臨床開発センター 精神腫瘍学開発分野)	
P54-9	セカンドオピニオン関連の相談の一考察	496
	大松 尚子 (大阪市立大学 医学部 附属病院 がん相談支援センター)	
P54-10	外来がん患者の支援に向けた取り組みと今後の課題	496
	長嶺 てるみ (国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院 看護部)	

**P55
セデーション**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 丹田 滋 (労働者健康福祉機構 東北労災病院 腫瘍内科)

P55-1	心理・実存的苦痛を主とした理由で鎮静を開始した一例に対する倫理的考察	497
	徳山 洋子 (社会医療法人岡本病院(財団) 第二岡本総合病院 薬剤部)	
P55-2	気持ちのつらさに対する持続鎮静の検討	497
	大塚 正友 (近畿大学 医学部 堺病院 緩和ケア科)	
P55-3	持続的鎮静導入時の検討シート作成の試み～看護師の体験に基づく調査結果から得られた視座より～	497
	鈴木 かおり (地方独立行政法人 独立行政法人機構 静岡県立総合病院)	
P55-4	終末期がん患者の鎮静の実施における倫理的課題 がん治療支援緩和ケアチーム (PCT) 活動を通して	497
	水野 俊美 (がん研有明病院 看護部)	
P55-5	一般病棟の終末期医療に関わる看護師の鎮静に対する認識	498
	安里 美佳 (医療法人社団 杏順会 越川病院)	
P55-6	鎮静に対する医師・看護師の意識調査	498
	荒木 弥生 (社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 緩和ケアチーム)	
P55-7	当院緩和ケア病棟におけるセデーションの施行状況	498
	澤野 剛 (医療法人潤和会 札幌ひばりが丘病院 薬剤科)	

P55-8	当院緩和ケア病棟における鎮静施行の現状と今後のあり方……………498 吉川 愛子 (石川県済生会金沢病院 緩和ケア病棟)
P55-9	当院緩和ケア病棟における終末期鎮静についての検討……………499 大呂 昭太郎 (鳥取生協病院 緩和ケア科)

P56

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

アドバンス・ケア・プランニング

座 長: 山川 宣 (国家公務員共済組合連合会 六甲病院 緩和ケア科)

P56-1	高齢者の事前指示に関するわが国の研究動向……………499 松井 美帆 (奈良県立医科大学)
P56-2	高齢者のエンド・オブ・ライフ (終末期) の生活と望ましい最期の迎え方……………499 和泉 成子 (Oregon Health & Science University School of Nursing)
P56-3	「早期からの緩和ケア」を目指して～当院での緩和医療科初診時の問診票から見えてくる現状・課題～……………499 平野 拓司 (岩手県立磐井病院 緩和医療科)
P56-4	がん専門病院に勤務する看護師がACPを実践しようとするとき、どんなバリアを感じるか……………500 西海 嘉能 (兵庫県立がんセンター 看護部)
P56-5	地域におけるアドバンスケアプランニングの浸透と確立への試み……………500 石橋 あかね (医療法人清和会長田病院)
P56-6	Advance care planningにおける看護師の役割に関する文献的一考察……………500 鈴木 笑子
P56-7	進行乳がんで6年間化学療法を継続してきた患者のACPのプロセスの評価……………500 西 里佳 (社会医療法人 博愛会 相良病院)

P57

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

ホスピス・緩和ケア病棟1

座 長: 馬場 美華 (彩都友誼会病院 緩和ケア科)

P57-1	緩和ケア病棟で生きる希望を見出した膵臓癌患者の一例……………501 西條 美香 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 緩和ケア科)
P57-2	緩和ケア病棟での家族ケアが在宅看取りの達成につながった一症例……………501 岡田 由佳理 (大阪府立 呼吸器アレルギー医療センター)
P57-3	消化管出血を伴うPS不良の胃癌患者に対し放射線照射が著効した2例……………501 早津 栄一 (医療法人聖仁会 森病院 緩和ケア病棟)
P57-4	寝たきりから立位が可能となり自宅へ退院した一事例……………501 上原 菜穂 (社会医療法人 友愛会 南部病院 緩和ケアチーム)
P57-5	終末期の意思決定を支えるとは～意思確認が困難な頭頸部がん患者と家族との関わりを振り返って～……………502 稲岡 裕子 (兵庫県立 加古川医療センター 緩和ケア病棟)
P57-6	緩和ケア病棟で経験した自然退縮を認めた再発胃がんの一例……………502 小林 剛 (独立行政法人 国立病院機構 西群馬病院 緩和ケア科)
P57-7	緩和病棟における消化器癌患者の検討……………502 久志 一郎 (国立病院機構 沖縄病院)
P57-8	緩和ケア病棟と一般病棟における血液悪性腫瘍死亡症例の検討……………502 長町 康弘 (清田病院 血液内科)
P57-9	緩和ケア病棟において精神科受診を要した症例……………503 西里 卓次 (清田病院 緩和ケア内科)
P57-10	その人らしさを尊重した排泄ケアを支えて……………503 浦野 良実 (足利赤十字病院 緩和ケア病棟)

ホスピス・緩和ケア病棟2

座長：石原 辰彦(岡山済生会総合病院 緩和ケア科)

- P58-1 地方公立病院における緩和ケア病院オープン1年目の現状と課題……………503
坂田 典史(山鹿市民医療センター 呼吸器内科)
- P58-2 地域がん診療拠点病院における緩和ケア病棟の役割……………503
福田 豊洋(伊勢赤十字病院)
- P58-3 新設された緩和ケア病棟に配属された看護師の実態調査
～緩和ケアに関する医療者の知識・態度・困難感の評価尺度を用いて～……………504
村上 美香(山鹿市民医療センター 緩和ケア病棟)
- P58-4 緩和ケアセンター開設にともなう看護師の心理的变化……………504
森本 千嘉(JA岐阜厚生連 久美愛厚生病院 緩和ケアセンター)
- P58-5 当院緩和ケア病棟(開設初年度)の運用の実態と課題……………504
中務 博信(公益社団法人 京都民医連中央病院 緩和ケア内科)
- P58-6 療養型病院における緩和ケア病棟の立ち上げ～生活を支えるために～……………504
小杉 依子(鶴巻温泉病院 緩和ケア病棟)
- P58-7 当院における緩和ケア病棟に関する意識調査結果と今後の病棟運営の課題……………505
柿本 久美子(兵庫県立加古川医療センター 緩和医療委員会)
- P58-8 積極的治療が困難になった非小細胞肺癌患者に緩和医療を提供する診療科の違い(緩和ケア科と呼吸器内科)が
予後に与える影響についての検討……………505
高木 麻理子(財団法人東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科)
- P58-9 緩和ケア病棟の診療体制と利用状況の平均在棟日数での違い……………505
佐藤 一樹(東北大学大学院 医学系研究科 緩和ケア看護学)
- P58-10 緩和ケア病棟における症状緩和を目的とした急性期治療の実際……………505
本井 真樹(公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 緩和ケア病棟)

ホスピス・緩和ケア病棟3

座長：原 聡(原クリニック)

- P59-1 緩和ケア病棟における終末期にある患者の「一時帰宅」の支援……………506
本井 真樹(公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 緩和ケア病棟)
- P59-2 診療報酬改訂に伴う当院緩和ケア病棟の変化……………506
龍澤 泰彦(石川県済生会金沢病院 緩和ケア病棟、石川県在宅緩和ケア支援センター)
- P59-3 当院ホスピス病棟における長期入院患者の検討……………506
宮地 ますみ(宗教法人 聖フランシスコ病院会 聖フランシスコ病院 ホスピス)
- P59-4 診療報酬改定前後の緩和ケア病棟利用状況の変化……………506
長江 浩幸(総合病院 南生協病院 内科)
- P59-5 緩和ケア病棟から生存退院した患者の特徴や退院後の状況に関する調査・検討……………507
太田 周平(神奈川県立がんセンター 緩和ケア内科)
- P59-6 当院緩和ケア病棟における自宅退院ケースの検討……………507
上林 孝豊(京都民医連中央病)
- P59-7 外来から病棟への継ぎ目のない緩和ケア介入の取り組み……………507
寺田 祐里(石川県済生会金沢病院 緩和ケア病棟)
- P59-8 がん患者が緩和ケア病棟へ移行する意思決定要因の分析……………507
樋笠 洋子(三豊総合病院企業団 緩和ケア病棟)

P59-9	一般病棟での緩和ケア病棟登録面談の役割の考察……………508 秋月 晶子（千葉県がんセンター 緩和医療科）
P59-10	緩和ケア病棟への移行による患者の思いについて～入院後の患者面談を通して～……………508 酒井 裕子（兵庫県立加古川医療センター 緩和ケア病棟）

**P60
ホスピス・緩和ケア病棟4**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：伊奈 研次（名古屋記念病院 化学療法科）

P60-1	新設緩和ケア病棟でモニターを使用しない看取りを経験した看護師の不安感に関する検討……………508 村路 留美子（小牧市民病院 緩和ケア病棟）
P60-2	業務量調査からみえる緩和ケア看護の特徴……………508 岩井 千代（NTT東日本関東病院）
P60-3	終末期患者の家族と関わる看護師の困難感の軽減～マニュアル・パンフレットを作成して～……………509 長谷川 淳子（国立病院機構 山口宇部医療センター 緩和ケア病棟）
P60-4	開設5年目の緩和ケア病棟看護師の学習ニーズ……………509 名越 恵美（岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科）
P60-5	在宅療養支援型緩和ケア病棟における看護師のストレス……………509 市川 歩（三友堂病院 地域緩和ケアサポートセンター）
P60-6	緩和ケア病棟におけるフォーカスチャータリング使用の考察……………509 小北 直美（岡山中央奉還町病院 緩和ケア病棟）
P60-7	緩和ケア実践上の困難に対する緩和ケア専従医の対処……………510 青木 美和（大阪大学医学系研究科 保健学専攻）
P60-8	データベース管理ソフトを用いた緩和ケアに関する業務の効率化の試み……………510 今村 隆（倉敷中央病院 総合診療科）
P60-9	独立型ホスピスにおける持参麻薬の廃棄状況……………510 堀 美保（大分ゆふみ病院）
P60-10	緩和ケア病棟がない中での療養病棟における課題～淡路島で緩和ケアを行うにあたって～……………510 川 二美（いちえ会 洲本伊月病院 看護部 療養病棟）

**P61
緩和ケアチーム6**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：藤本 早和子（京都府立医科大学附属病院）

P61-1	緩和ケアチームが行う療養体制の調整について……………511 脇谷 美由紀（昭和大学病院 看護部、緩和ケアセンター）
P61-2	外泊支援における緩和ケアチームの役割……………511 石橋 恭子（茅ヶ崎市立病院 緩和ケアチーム）
P61-3	緩和ケアチーム（PCT）の退院支援の取り組み……………511 松岡 サチ子（西知多医療厚生組合 知多市民病院 看護科）
P61-4	急性期病院に併設された訪問看護ステーションと緩和ケアチームの連携について……………511 松本 庸子（市立加西病院 緩和ケアチーム）
P61-5	終末期における多職種連携・在宅ネットワークについての考察と今後の課題……………512 神崎 美和（社会医療法人 景岳会 南大阪病院）
P61-6	抗がん剤治療から緩和ケアへのシームレスな移行のために市民公開講座における患者・家族への情報提供……………512 梅田 節子（地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院）
P61-7	緩和ケアチームの活動を通して見えた地域の課題……………512 佐山 順子（東大宮総合病院 緩和ケアチーム）

P61-8	患者・家族参加型のカンファレンスの効果～在宅療養へ移行した2事例より～	512
	大津 陽子（地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院）	
P61-9	急性期病院における緩和ケアチームの早期介入及び継続介入の必要性	513
	山田 くみ（川崎市立多摩病院）	

P62

ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土）14:30-15:30

緩和ケアチーム7

座 長：村上 忠（医療法人赤城会 三枚橋病院、群馬県立がんセンター）

P62-1	ノルスパンテープ中止後に退薬症状が発現した一症例	513
	飯田 寿美代（佐賀大学 医学部 附属病院 薬剤部、緩和ケア診療班）	
P62-2	抗結核薬によるオキシコドンとの薬物相互作用が考えられた肺結核合併肺癌患者の1例	513
	小川 陽子（近畿中央胸部疾患センター 支持・緩和ケアチーム、薬剤科）	
P62-3	難治性咳嗽に対してガバペンチンが著効した一症例	513
	新開 由紀（静岡県立静岡がんセンター）	
P62-4	エルロチニブが奏効した癌性髄膜炎3症例に対するQOL向上のための緩和ケアチームの取り組み	514
	竹安 真季子（虎の門病院 臨床腫瘍科）	
P62-5	多発性骨髄腫の疼痛管理の問題点	514
	水口 亜紀（札幌医科大学 医学部 麻酔科）	
P62-6	一般病院における医療用麻薬の使用量の変化等からみる緩和ケアチームの関連性	514
	神門 孝典（鹿児島厚生連病院）	
P62-7	がん性疼痛に対する啓蒙活動によるオピオイド使用法の標準化の評価	514
	神田 尚代（公立玉名中央病院）	
P62-8	緩和ケアチーム介入によるオピオイド使用量・疼痛コントロール・副作用対策の推移	515
	及川 麻希（岩手県立胆沢病院）	
P62-9	フェンタニル貼付剤への切り替え理由の実態調査	515
	武藤 記代子（独立行政法人 国立病院機構 北海道がんセンター 緩和ケアチーム）	
P62-10	総合病院の医師・看護師・薬剤師がもつモルヒネへのイメージと“緩和ケアチーム”を紹介する抵抗感	515
	矢野 和美（東京通信病院）	

P63

ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土）14:30-15:30

緩和ケアチーム8

座 長：田巻 知宏（北海道大学病院腫瘍センター 緩和ケアチーム）

P63-1	ディスプレイ型PCAポンプの院内導入に対する緩和ケアチームの取り組み	515
	湊川 紘子（聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター 緩和医療部会、薬剤部）	
P63-2	所属部署が主体となって緩和ケアに取り組むプロジェクト ～医療者が抱える緩和ケアの困難度と緩和ケアチームの課題～	516
	安部 陽子（独立行政法人 国立病院機構 九州がんセンター）	
P63-3	緩和ケアチームへの依頼理由と依頼時に緩和ケアチームが同定した問題との比較	516
	須賀 昭彦（静岡済生会総合病院 緩和医療科）	
P63-4	看取り時期のスキンケアラウンドの再考～入院棟看護師へのアンケートから～	516
	中野 要（鶴岡市立荘内病院 緩和ケアチーム）	
P63-5	当院におけるスタッフを対象とした緩和ケア学習会～参加者の増加とその継続に結びついた学習会の工夫～	516
	松岡 弘子（和泉市立病院 緩和ケアチーム）	
P63-6	緩和ケアチームが介入したがん治療期の患者の入院期間長期化の要因の検討	517
	尾立 和美（大分赤十字病院 緩和ケア委員会）	

P63-7	疼痛評価における患者理解度のリスク因子.....517 山下 慈 (青森県立中央病院 緩和ケアチーム)
P63-8	急性期総合病院での緩和ケアチームにおける Palliative prognostic indexとPalliative prognostic scoreの妥当性の検証.....517 園田 博 (医療法人 溪仁会 手稲溪仁会病院 臨床研修部)
P63-9	脊椎転移を契機に肺癌と診断され脊髄麻痺をきたした3症例.....517 磯野 永依 (けいゆう病院 緩和ケア内科)
P63-10	早期介入症例を通し、早期から緩和ケアを実践し切れ目のないチーム介入をしていくために、 今後の課題を検討する.....518 梶 ひとみ (県民健康プラザ 鹿屋医療センター)

**P64
緩和ケアの質1**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：高橋 麗子 (石川県立中央病院)

P64-1	「生きている」実感を最期まで支えた終末期看護の1事例.....518 仁井山 由香 (広島市立広島市民病院)
P64-2	終末期せん妄と鑑別困難なレビー小体型認知症の1例.....518 萩原 信悟 (筑波メディカルセンター病院 緩和医療科)
P64-3	モルヒネ速放製剤を胃瘻から注入し門脈ガス血症を発症した1例.....518 佐野村 誠 (北摂総合病院 緩和ケアチーム)
P64-4	終末期患者の希望を支えるために～症例からの考察～.....519 小谷 由美 (独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター)
P64-5	がん終末期のせん妄に対する看護師のアセスメント能力を高める取り組み ～DSTを用いたスクリーニングおよびせん妄の標準看護計画を使用して～.....519 記虎 美和 (医療法人 東札幌病院 西棟緩和ケア病棟)
P64-6	急性期病院消化器内科病棟における終末期ケアに対する病棟看護師の困難感の変化 ～緩和ケア認定看護師が同席するカンファレンス導入を試みて～.....519 杉山 絵里 (島根県立中央病院 看護局)
P64-7	「ホスピス緩和ケア病棟の評価指針」による緩和ケア病棟の質向上への取り組み.....519 上野 史織 (熊本地域医療センター)
P64-8	緩和ケア病棟スタッフの語り合いにおける思いの分析～「緩和ケア病棟語る会」で明らかになったもの～.....520 工藤 美樹 (医療法人 社団 三喜会 鶴巻温泉病院)

**P65
緩和ケアの質2**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長：里見 絵理子 (国立病院機構大阪医療センター 緩和ケア内科)

P65-1	緩和ケア介入時の予後予測と実際の生存期間～臓器別および予測期間による検討～.....520 山崎 裕 (市立函館病院 緩和ケア科、緩和ケアチーム)
P65-2	一地域がん診療拠点病院である当院での終末期医療の実態.....520 木下 敏史 (独立行政法人 労働者健康福祉機構 香川労災病院 緩和ケア科)
P65-3	A病棟におけるPalliative care conferenceでの認定看護師の役割の検討 ～病棟看護師の認識 実態調査から～.....520 井出 恭子 (独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 看護部、がんサポートチーム)
P65-4	がん治療中から適切な早期からの緩和ケアを提供するための課題抽出看護師の意識調査から 緩和ケア介入方法を考える.....521 武山 喜代枝 (総合病院国保旭中央病院 緩和ケア病棟)
P65-5	がん連携拠点病院の一般病棟における緩和ケアに関する看護師の意識調査.....521 姫野 知子 (春日部市立病院)

P65-6	外来初回オピオイド導入患者の満足度についての研究～薬剤師にできることは？～	521
	葛谷 真理 (名古屋第二赤十字病院 薬剤部)	
P65-7	外来における終末期がん患者の療養場所選択に関する相談支援の現状と課題	521
	蔭山 恵子 (関西医科大学附属滝井病院)	
P65-8	救急外来で死別した家族による医療評価：一般市民への調査結果から	522
	木下 里美 (神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科)	

**P66
小児の緩和ケア**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座長：多田羅 竜平 (大阪市立総合医療センター 緩和医療科兼小児総合診療科)

P66-1	小児の難治性がん疼痛に対しモルヒネにより良好な鎮痛効果が得られた一症例	522
	谷口 綾 (関西医科大学附属枚方病院 薬剤部)	
P66-2	長期担がん状態の小児に対する緩和医療～12年の経過をたどった平滑筋肉腫症例より～	522
	大谷 眞二 (鳥取大学 医学部 小児外科、病態制御外科)	
P66-3	意思決定支援について課題を感じた在宅で関わった小児髄芽腫の1例	522
	宍戸 智子 (医療法人社団雄樹会 宍戸内科医院)	
P66-4	くも膜下持続ブロックによって鎮痛が可能となり在宅での看取りとなった小児の1例	523
	敦賀 健吉 (北海道大学病院 麻酔科)	
P66-5	小児同種骨髄移植に伴う口内炎の痛みに対する取り組み	523
	権 哲 (京都府立医科大学 疼痛緩和医療学講座)	
P66-6	小児緩和ケアにおける家族の心理的負担	523
	伊藤 嘉規 (名古屋市立大学病院 緩和ケア部、名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学)	
P66-7	小児がん患者の保護者の心理的側面に関する研究～保護者の心的外傷性ストレス症状に関して～	523
	中山 菜央 (東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野)	
P66-8	小児専門病院が開催する遺族会	524
	岡和田 祥子 (静岡県立こども病院)	

**P67
非がんの緩和ケア1**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座長：音部 好宏 (医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院東分院 診療部)

P67-1	デクスメトミジンをうい意識レベルの維持と呼吸苦の改善が得られた終末期慢性呼吸不全の1症例	524
	村松 由利子 (市立御前崎総合病院 看護部)	
P67-2	種々の疼痛を合併したプロトボルフィン症の一例	524
	加登 大介 (国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 臨床腫瘍科)	
P67-3	レスパイトケア的な入院をきっかけに多剤鎮痛薬を減量することができた膠原病の一例	524
	稲田 深雪 (名古屋医療センター 内科 緩和医療室)	
P67-4	入院時に腰部脊柱管狭窄症術後の慢性疼痛に対してフェンタニルパッチを使用していたが、鎮痛薬の調整により中止できた一例	525
	村瀬 樹太郎 (川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター 緩和ケア内科)	
P67-5	非癌呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する緩和治療～間質性肺炎急性増悪に伴う呼吸困難にオピオイドが有効であった一例～	525
	木村 尚子 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市南部病院 呼吸器内科、緩和医療科)	
P67-6	非がん性の神経障害性疼痛にイフェンプロジルが奏功した1例	525
	金子 睦志 (厚生連 柏崎総合医療センター)	
P67-7	透析患者に発症したBlue toe syndromeに伴う下肢痛に対して ブプレノルフィン貼付剤が有効であった一例	525
	平野 茂樹 (小牧市民病院 薬局、緩和ケアチーム)	

座 長:長江 弘子(千葉大学大学院看護学研究科)

- P68-1 生命を脅かされた非がん患者への多職種によるアプローチの効果……………526
多田 啓恵(都立多摩総合医療センター 緩和ケアチーム)
- P68-2 慢性心不全終末期における精神科・精神腫瘍科の取り組み……………526
黒田 理子(福山市民病院 精神科・精神腫瘍科)
- P68-3 肺炎で入院した認知症高齢者の意思決定支援についての検討
～「清水・会田の意思決定プロセスノート」を適用し表出された家族の語りより～……………526
高道 香織(国立長寿医療研究センター)
- P68-4 信州大学緩和ケアチームにおける非がん患者緩和ケアの現状と問題点……………526
坂本 明之(信州大学 医学部 包括的がん治療学講座、緩和ケアチーム)
- P68-5 非がん肺炎患者の呼吸困難感に対するオピオイドの導入時期と有用性に関する検討……………527
木下 真弓(聖隷横浜病院 麻酔科)
- P68-6 認知症を伴うがん終末期患者に対するケアとケアを困難にさせている要因
～病棟看護師のアセスメントやケアの実際を分析して～……………527
丸子 道晴(医療法人 東札幌病院 東棟緩和ケア病棟)
- P68-7 療養型病床の看護師の神経筋疾患患者の緩和ケアに対する困難感の調査
～「一般病棟の看護師の終末期がん患者のケアに対する困難感尺度」を用いて～……………527
富川 正子(独立行政法人 国立病院機構 長崎川棚医療センター)

座 長:高瀬 久光(福岡大学病院 薬剤部・緩和ケアチーム)

- P69-1 消化器病棟における緩和ケア対象患者に対するノロウイルス対策の影響に関する考察……………527
児玉 佳之(社会医療法人社団カレスサポポ 時計台記念病院 消化器センター、栄養管理部、
社会医療法人社団カレスサポポ 法人本部がん医療推進室)
- P69-2 集学的治療を行い在宅医療に移行した局所進行乳癌多発転移の1例……………528
吉田 秀行(関西医科大学 外科)
- P69-3 ステロイド投与が終末期のtumor hypoglycemia症状の緩和に有効であった孤立性線維性腫瘍の1例……………528
東 英子(あすま在宅医療クリニック)
- P69-4 直腸癌術後再発による内腸骨動脈一回腸瘻からの間欠的大量出血にたいする輸血治療の1経験例……………528
荒能 義彦(KKR北陸病院)
- P69-5 Best Supportive Care期の肺がん患者におけるQOL評価に関する研究……………528
武田 ヒサ(国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 看護部 支持・緩和療法チーム)
- P69-6 終末期がん患者における食事への意識と緩和ケア病棟特別調理へのニーズ……………529
細川 舞(独立行政法人国立病院機構 西群馬病院 看護部)
- P69-7 がん患者・家族のサポートグループ「がんを知って歩む会」運営スタッフのためのDVD教材の評価……………529
細矢 美紀(国立がん研究センターがん対策情報センター)

座 長:清水 研(国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

- P70-1 長期にわたって高いQOLを維持している進行がん患者についての精神科医の視点からの一考察
～マインドフルネスな心理的態度の影響について～……………529
森田 幸代(滋賀医科大学 腫瘍センター)

P70-2	作業療法ががん終末期の患者の生きる希望を支えた一症例……………529 野田 有里奈 (香川県立中央病院 リハビリテーション部 作業療法科、かんわ支援チーム)
P70-3	終末期呼吸不全患者の呼吸困難に対する新しい呼吸療法「ネーザルハイフロー療法」の有用性の検討……………530 鈴木 俊郎 (岩手県立胆沢病院 呼吸器内科)
P70-4	相談業務における継続的支援の意義～外来乳がん患者の持つ不安への関わり～……………530 佐藤 有沙 (順天堂大学 医学部附属 練馬病院 がん治療センター)
P70-5	化学療法中のがん患者に対する体操の効果……………530 茶園 美香 (慶應義塾大学 看護医療学部)
P70-6	がん患者が精神科病棟で最期を迎えるということ……………530 北浦 祐一 (関西医科大学附属滝井病院 精神神経科、緩和ケアチーム、緩和ケア科)

**P71
ピアサポート**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 谷 一彦 (福井県済生会病院 ホスピス)

P71-1	乳がん患者が、院内患者会に参加することの意味……………531 安達 なさ子 (越谷市立病院)
P71-2	当大学病院におけるがん患者サロン1年間の経緯と今後の課題……………531 上田 育子 (大阪医科大学附属病院 看護部、がん相談支援室)
P71-3	がん患者への専門・認定看護師による支援～茶話会参加者へのアンケート調査から～……………531 奥澤 直美 (独立行政法人 国立病院機構 西群馬病院 看護部)
P71-4	がん患者・家族の悩み相談を受ける看護師の能力開発に関する研究 (第5報) ～がん患者・家族の交流会 (がん患者・家族サロン) の経過と今後の課題～……………531 三浦 浅子 (公立大学法人 福島県立医科大学看護学部)
P71-5	ピアサポーターと緩和ケアチームの協働によるがん患者と家族への支援……………532 奥村 あすか (地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院)
P71-6	院内がん患者サロンに医療者が参加することに関する検討……………532 嶋中 ますみ (済生会横浜市南部病院)
P71-7	地域がん診療連携拠点病院の医療者が支援する乳がんサロンの機能と課題……………532 増永 悦子 (愛知医科大学 看護学部)
P71-8	胃がん患者と家族を対象にした調理実習を取り入れたがんサロンの開催 第1報 ～がんサロンの実際と開催から得られたもの～……………532 平 優子 (市立砺波総合病院 看護部)
P71-9	がんサロンを夜に開催することの意義～日中開催と比較して～……………533 西 智弘 (川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター)

**P72
教育4**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 竹之内 沙弥香 (京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 臨床看護学講座 成人看護学/生活習慣病看護学分野)

P72-1	学生のがんリハビリテーションの認知、理解度について ～リハビリテーション専門職養成校でのアンケート調査から～……………533 篠崎 貴志 (独立行政法人 国立病院機構 長崎病院 リハビリテーション科)
P72-2	看護系大学学部生への緩和ケア教育～実習レポートにみる学生の認識による成長プロセス～……………533 菊永 淳 (新潟大学 医学部 保健学科)
P72-3	薬学生に対する緩和ケア教育の効果について……………533 野田 理絵 (徳島県立中央病院 薬剤局、緩和ケアチーム)
P72-4	薬学生を対象とした緩和医療教育の検討 (第4報)～実務実習終了後の知識度尺度による追跡調査～……………534 久原 幸 (手稲溪仁会病院 がん治療管理センター 緩和ケア室・緩和ケアチーム)

P72-5	薬学生に対する緩和医療卒前教育への取り組み（第2報） ～講義受講前後における臨老式死生観尺度を使用した死生観に関する意識変化の解析～	534
杉浦 宗敏（東京薬科大学薬学部医薬品安全管理学、薬剤部）		
P72-6	臨床実習前の医学生の「緩和ケア」に関する意識調査 第二報「緩和ケア」の認識について	534
吉武 淳（熊本大学大学院 生命科学研究部 麻酔科学分野）		
P72-7	医学生は麻薬性鎮痛薬に対し、強い負のイメージを持っている ～アンケート調査から卒前教育の問題点を考える～	534
本間 恵子（滋賀医科大学 医学部 附属病院 手術部）		
P72-8	「医学生の緩和ケア教育のための教員セミナー」参加者のニーズ ～過去7年間のアンケート結果からの検討～	535
斎藤 真理 （横浜市立大学附属 市民総合医療センター 化学療法・緩和ケア部、大学病院の緩和ケアを考える会 教育部会）		
P72-9	PEACEスライドを用いた地域・院内医療従事者向け緩和ケア研修会定期連続開催の報告	535
大津 秀一（東邦大学 医療センター 大森病院 緩和ケアセンター）		
P72-10	「緩和医療専門医を目指す医師のための研修カリキュラム」において「様々な場所での研修」が望まれる理由とは？ ～半年間の緩和ケア病棟研修での経験症例を振り返る～	535
千葉 創（国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科）		

**P73
教育5**

ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土）14:30-15:30

座 長：松本 俊子（総合病院 土浦協同病院）

P73-1	当院における緩和ケア普及活動～ホームページでの取り組み～	535
竹内 麻理（慶應義塾大学 医学部 精神・神経科学教室、慶應義塾大学病院 緩和ケアチーム）		
P73-2	一般病棟での緩和ケアの知識向上に向けた取り組み～5分間のミニレクチャを通して～	536
河合 房乃（三木市立 三木市民病院）		
P73-3	院内ホームページを利用した、オピオイドローテーション時に使用できる計算ツールの作成	536
佐藤 哲（静岡県立静岡がんセンター 薬剤部）		
P73-4	姫路赤十字病院における『PCAポンプ研修会』の評価	536
井上 豊子（姫路赤十字病院 看護部）		
P73-5	退院前カンファレンスを研修する多人数ロールプレイの試み	536
市川 直明（長野赤十字病院 緩和ケアチーム）		
P73-6	せん妄の一次緩和ケアに対する病棟介入の効果～伝え方を工夫すれば初期対応は変わる～	537
堂谷 知香子（千葉県がんセンター 精神腫瘍科）		
P73-7	当緩和病棟におけるデスクカンファレンスアンケート調査からみた現状と課題	537
笠井 奈津与（札幌共立五輪橋病院緩和病棟）		
P73-8	清瀬市における市民へのホスピス緩和ケア普及啓発のための取り組みの報告 ～「清瀬ホスピス緩和ケア週間」を清瀬市内の3施設で共催して～	537
堀江 亜紀子（社会福祉法人信愛報恩会 信愛病院）		
P73-9	岩手県におけるELNEC-Jの開催報告 第1報～内陸と沿岸での研修会の評価～	537
伊藤 奈央（岩手県立中央病院）		
P73-10	岩手県におけるELNEC-Jの開催報告 第2報～（内陸地域）終了3カ月後の評価～	538
工藤 朋子（岩手県立大学 看護学部）		

**P74
基礎・臨床研究1**

ポスター会場（展示ホール） 6月22日（土）14:30-15:30

座 長：宮崎 貴久子（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野）

P74-1	ラットにおける morphine 誘発嘔気・嘔吐作用と唾液中心アミラーゼ活性の相関	538
宇田 将人（星薬科大・薬・薬品毒性）		

P74-2	ラモセトロン塩酸塩0.1mg(ナゼア OD [®])内服の胃排出能に及ぼす影響に関する検討	538
	日下部 明彦 (みらい在宅クリニック)	
P74-3	日本人健康成人男性におけるフェンタニル3日用テープ 2.1 mg「明治」及びデュロテップ [®] MTパッチの単回貼付時の生物学的同等性の検討	538
	嶋田 顕 (昭和大学 横浜市北部病院 内科、埼玉医科大学国際医療センター 腫瘍内科)	
P74-4	薬剤師が行うオピオイド使用患者にCYP阻害・誘導薬剤が追加された際の注意喚起システムの構築	539
	高野 陽平 (砂川市立病院 緩和ケアチーム、薬剤部)	
P74-5	末期がん患者における呼吸困難とオピオイド投与との関連性	539
	山本 直子 (日野病院 薬剤管理室)	
P74-6	統合失調症患者におけるがん治療の現状	539
	上村 恵一 (市立札幌病院 精神医療センター)	
P74-7	当院における悪性消化管閉塞に対する酢酸オクトレオチド使用の現状	539
	豊見山 健 (沖縄赤十字病院 外科)	
P74-8	デノスマブによる低カルシウム血症発現傾向の解析	540
	大森 克哉 (札幌医科大学附属病院 薬剤部、緩和ケア管理室)	
P74-9	当科における、リドカイン持続皮下注射の施行経験	540
	竹内 愛 (日本赤十字社医療センター 緩和ケア科)	
P74-10	終末期がん患者の手掌点状出血 (Black spots on palms) の出現頻度と時期	540
	松尾 直樹 (医療法人 惇慧会 外旭川病院 ホスピス)	

**P75
基礎・臨床研究2**

ポスター会場(展示ホール) 6月22日(土) 14:30-15:30

座 長: 伊勢 雄也 (日本医科大学付属病院 薬剤部)

P75-1	トラムセット投与初期の嘔気は制吐剤により予防できる～ historical control との比較～	540
	阿部 泰之 (旭川医科大学病院 緩和ケア診療部)	
P75-2	泌尿器科癌に対するトラマドールの使いどころ	541
	澤田 樹佳 (市立敦賀病院 緩和ケアチーム)	
P75-3	泌尿器癌疾患の癌性疼痛に対するオキシコドン徐放錠の長期投与症例の検討	541
	中根 明宏 (愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 泌尿器科)	
P75-4	終末期肺癌患者の呼吸困難発症の予測因子に関する検討	541
	長谷川 貴昭 (岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科)	
P75-5	肺癌と診断され初回治療を受ける患者に対する心理的な看護介入の効果	541
	岡本 愛 (鳥取大学医学部附属病院)	
P75-6	結腸癌および直腸癌の終末期臨床像	542
	小笠原 鉄郎 (宮城県立がんセンター 緩和医療科)	
P75-7	非根治癌患者における生物学的予後スコアの予測精度と外的妥当性の前向き検証 ～好中球/リンパ球比、Palliative Prognostic Index、腫瘍医の予後予測との比較～	542
	大道 雅英 (長野市民病院 緩和ケア内科・緩和ケアチーム)	
P75-8	終末期がん患者の症状推移について	542
	原田 千尋 (国立病院機構 山口宇部医療センター)	
P75-9	SVC症候群に対し緊急的に放射線治療を行い、症状改善の見られた3例についての検討	542
	小島 美保 (小牧市民病院 緩和ケア科)	

座 長：丹波 嘉一郎（自治医科大学附属病院 緩和ケア部）

P76-1	当院におけるデノスマブの使用状況調査.....	543
	赤瀬 博文（神戸市立医療センター西市民病院 薬剤部）	
P76-2	高用量トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の使用実態調査.....	543
	宇都 直哉（熊本労災病院 薬剤部）	
P76-3	トラマドール塩酸塩カプセルおよびトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の使用実態調査.....	543
	宇都 直哉（熊本労災病院 薬剤部）	
P76-4	がん疼痛治療におけるトラマドール塩酸塩の使用実態調査.....	543
	望月 幹子（兵庫医科大学病院 薬剤部）	
P76-5	当院におけるオキシコドン注射剤の使用実態.....	544
	伊藤 香織（東京都立多摩総合医療センター 薬剤科 緩和ケアチーム）	
P76-6	オキシコドン注射液からのオピオイドローテーションについての検討.....	544
	吉田 裕一（中通総合病院 緩和ケアチーム）	
P76-7	高用量フェンタニル貼付剤使用時に用いられるレスキュー処方量に関する調査.....	544
	渡邊 裕之（社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 緩和ケアチーム、薬剤部）	
P76-8	癌性疼痛に対するオピオイドの投与経路による服薬錠数の違い.....	544
	竹内 純恵（岩見沢市立総合病院 看護部）	
P76-9	経口オピオイドからフェンタニル貼付剤へローテーションした際の変更理由別にみる換算比の検討.....	545
	山田 正実（大阪府済生会野江病院）	
P76-10	3日製剤デュロテップMTパッチから1日製剤フェントステープに切り替えた際の実態調査.....	545
	齊藤 直美（公立藤田総合病院 薬剤部）	

座 長：水野 道代（筑波大学大学院 人間総合科学研究科）

P77-1	慢性疼痛に対するモルヒネ塩酸塩末の服薬継続に関する検討.....	545
	鈴木 雅恵（日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部）	
P77-2	当院緩和ケアチームへのコンサルテーションに関する満足度調査.....	545
	林 直美（国立大学法人富山大学附属病院）	
P77-3	当院がん患者における治療内容と身体疼痛緩和薬投与の現状.....	546
	岩永 陽子（公立八女総合病院 薬剤科、緩和ケアチーム）	
P77-4	和歌山県病院薬剤師会オンコロジー研究会9施設における緩和ケアに関する薬剤業務と医療用麻薬使用量の調査.....	546
	辻 直子（独立行政法人労働者健康福祉機構 和歌山労災病院 薬剤部、和歌山県病院薬剤師会 オンコロジー研究会）	
P77-5	緩和ケア病棟を有するケアミックス病院における麻薬処方件数の動向分析.....	546
	山下 和海（原土井病院 緩和ケア科）	
P77-6	急性期一般病院における緩和ケアに関するアンケート調査.....	546
	成瀬 博昭（TMG田園調布中央病院 緩和ケアチーム）	
P77-7	急性期病院病棟看護師の終末期医療に対する意識の変遷～3年ごと3回のアンケートを通して～.....	547
	宮崎 好美（佐野厚生総合病院 緩和ケアチーム）	
P77-8	地域小規模病院職員の緩和ケアに対する意識調査～施設の特徴によって医療者の意識は変化するか？～.....	547
	本間 英之（新潟県立加茂病院 総合診療科・緩和ケア科）	
P77-9	当院医師と看護師への終末期医療に対するアンケートから今後の緩和ケアチーム活動方針を探る.....	547
	井上 卓（佐野厚生総合病院 緩和ケアチーム）	

座 長：安部 睦美（松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科）

P78-1	肺癌患者の時間外救急受診547 南 誠剛（大阪警察病院）
P78-2	医療用麻薬の使用に対する遺族の体験に基づいた認識と意向548 新城 拓也（しんじょう医院）
P78-3	フェンタニル貼付剤の「剥がれ」に関する要因の考察～インシデント集計を通して～548 中崎 亜紀（昭和大学横浜市北部病院）
P78-4	緩和ケア専門従事者の臨床現場の「質」評価に関する考察 ～「緩和ケア病棟臨床指標開発に関するパイロット調査」に付帯して実施したヒアリングから～548 伊藤 恵子（東京都立多摩総合医療センター 緩和ケア科、日本ホスピス緩和ケア協会 緩和ケアの質に関する調査部会）
P78-5	看護職の死生観に影響を与える項目について548 河村 明代（徳山大学 福祉情報学部 福祉情報学科）
P78-6	脊椎転移に伴う病的骨折の早期診断のための単純X線撮影の工夫549 南場 寛文（高知大学 医学部 整形外科科学講座）
P78-7	終末期がん患者が「楽しみになることがある」ための医療者の支援 ～緩和ケア病棟の医師と看護師の回答の比較～549 中野 貴美子（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻）
P78-8	各職種間における疼痛アセスメントの相違についての検討549 久保 寿夫（中国中央病院 緩和ケアチーム）
P78-9	介護支援専門員のターミナルケア態度に関する調査研究549 金井 恵美（奈良県立医科大学附属病院）
P78-10	悲嘆を経験する遺族の睡眠障害の実態調査550 谷向 仁（大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター）